



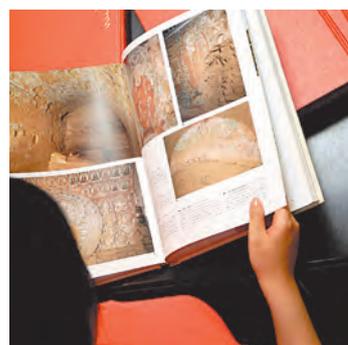
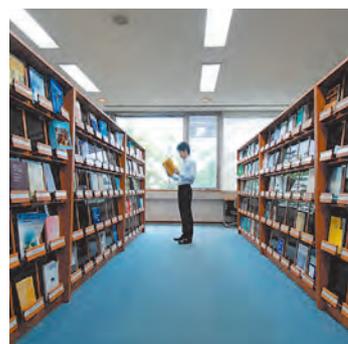
# 放送大学 アニュアルレビュー 2009

The Open University of Japan  
Annual Review 2009



# CONTENTS

|                  |   |    |
|------------------|---|----|
| 学長挨拶             | ● | 2  |
| 放送大学ならではの教育内容    | ● | 3  |
| 研究への継続的な取り組み     | ● | 9  |
| 世界に開かれた放送大学      | ● | 14 |
| 「開かれた大学」としての取り組み | ● | 17 |
| よりよい教育を目指して      | ● | 19 |
| 新センターの誕生と融合      | ● | 21 |
| 学習センターの動き、この1年   | ● | 23 |
| 放送大学の新たな動き       | ● | 31 |
| データで見る放送大学の概要    | ● | 33 |



「放送大学アニュアルレビュー2009」は原則として、2009年1月～12月の放送大学の活動を記録したものです。

## 【編集】

### ■放送大学アニュアルレビュー2009タスクグループ

副学長 荻野博

自然と環境 松本忠夫(主査) 人間と文化 島内裕子

生活と福祉 井上洋士 自然と環境 隈部正博

心理と教育 山口義枝 ICT活用・遠隔教育センター

社会と産業 山岡龍一 芝崎順司

■総合戦略企画室

## 2年目の Annual Review の公刊によせて



2010年3月

学長

又、弘光

昨年度、本学においても Annual Review を創刊した。今年で2年目を迎えるが、この Annual Review 2009 は、いわば放送大学が過去一年間に何をやってきたのかを社会的に公表する成績表のようなものである。

放送大学は、国民の皆さんが負担してくれる税金とそして学生諸君の納付金で、教育を中心とした業務を運営している。したがって納税者と学生に対し、また広く世間一般に対し、その活動が十分に行われているかを報告する義務がある。国公立を問わず、大学が近年その教育、研究、社会貢献などに関し、この種の年次報告を行うのはそれなりに理由があることである。国立大学が法人化された以降、この傾向が一段と強まったといえよう。

例年通り、この Annual Review に盛り込まれている内容は、大まかに言って2つの点に分けら

れる。まず第1に、大学の日常的な業務である教育・研究の実績がまとめられる。具体的には、放送授業、面接授業、学位記授与式などの毎年本学が行っている通常の活動がどのように実施されたかを、データ、写真を交え説明している。そして第2が、2009年に特に行われたイベントや取り組みなどである。いくつかの国際会議の開催、国際交流協定の締結、あるいは学習センターでの各種の催しなどが、臨場感をもって報告される。眼を通すだけでも、楽しい読み物になっていると思う。

いずれも放送大学の諸活動が、ヴィジュアルにいきいきと描かれている。このような素晴らしい Annual Review の作成にあたっては、創刊号に引き続き今回も荻野副学長をはじめ多数の方々のご尽力をいただいた。改めて、この場をお借りし心よりお礼を申し上げたい。

# 放送大学ならではの教育内容

## テレビ・ラジオによる授業

## 放送授業

放送授業は、面接授業と並び放送大学の教育の最も中心に位置づけられるものである。2009年度の開講科目数は、第2学期（2009年10月～2010年3月）現在、学部270科目（テレビ146科目、ラジオ124科目）、大学院71科目（テレビ32科目、ラジオ39科目）の合計341科目（テレビ178科目、ラジオ163科目）である（表1参照）。

これらの放送授業は、原則的に4年間（毎年2学期間ずつで合計8学期間）開講している。従って、第2学期現在の全開講科目341科目のおよそ4分の1ずつが、毎年入れ替わることになる。2009年度の新規開設科目は、学部50科目（テ

レビ26科目、ラジオ24科目）、大学院19科目（テレビ7科目、ラジオ12科目）の合計69科目（テレビ33科目、ラジオ36科目）である。（表2参照）

■表1 2009年度全開講科目数

|     | 第1学期  |       | 第2学期  |       |
|-----|-------|-------|-------|-------|
|     | テレビ科目 | ラジオ科目 | テレビ科目 | ラジオ科目 |
| 学部  | 144   | 123   | 146   | 124   |
|     | 267   |       | 270   |       |
| 大学院 | 32    | 39    | 32    | 39    |
|     | 71    |       | 71    |       |
| 合計  | 176   | 162   | 178   | 163   |
|     | 338   |       | 341   |       |

■表2-1 2009年度新規開設科目一覧（学部）（TV=テレビ、R=ラジオ）

| 科目区分                    | 系・コース                    | 科目名称                      | メディア | 単位数 |
|-------------------------|--------------------------|---------------------------|------|-----|
| 基礎                      | -                        | 運動と健康（'09）                | TV   | 2   |
|                         | -                        | 市民と社会を生きるために（'09）—実践のすすめ— | R    | 2   |
|                         | -                        | アジアと漢字文化（'09）             | TV   | 2   |
| 共通                      | 外国語                      | 基礎からの英文法（'09）             | R    | 2   |
|                         | 人文系                      | 教育心理学概論（'09）              | R    | 2   |
|                         |                          | 人格心理学（'09）                | R    | 2   |
|                         |                          | 日本近現代史（'09）               | R    | 2   |
|                         |                          | 地中海世界の歴史（'09）—古代から近世—     | TV   | 2   |
|                         |                          | 日本の近代文学（'09）              | R    | 2   |
|                         | 社会系                      | 社会調査（'09）                 | TV   | 2   |
|                         |                          | 技術者倫理（'09）                | TV   | 2   |
|                         | 自然系                      | 宇宙を読み解く（'09）              | TV   | 2   |
|                         |                          | 入門線型代数（'09）               | TV   | 2   |
|                         | 生活と福祉                    | 生活知と科学知（'09）              | TV   | 2   |
|                         |                          | 失敗予防の住まい学（'09）            | TV   | 2   |
| 公衆衛生（'09）               |                          | R                         | 2    |     |
| 障がいと共に暮らす（'09）—自立と社会連帯— |                          | TV                        | 2    |     |
| 道徳教育論（'09）              |                          | R                         | 2    |     |
| 専門                      | 心理と教育                    | 思春期・青年期の心理臨床（'09）         | R    | 2   |
|                         |                          | 心理カウンセリング序説（'09）          | R    | 2   |
|                         |                          | 現代経済学（'09）                | TV   | 2   |
|                         | 社会と産業                    | 現代の犯罪と刑罰（'09）             | R    | 2   |
|                         |                          | 現代環境法の諸相（'09）             | TV   | 2   |
|                         |                          | 西洋政治理論の伝統（'09）            | R    | 2   |
|                         |                          | 国際経営（'09）                 | R    | 2   |
|                         |                          | 官民の人的資源論（'09）             | TV   | 2   |
|                         |                          | 組織運営と内部監査（'09）            | TV   | 2   |
|                         |                          | バイオテクノロジーと社会（'09）         | TV   | 2   |
| 環境デザイン論（'09）            | TV                       | 2                         |      |     |
| 人間と文化                   | 実存と現象学の哲学（'09）           | R                         | 2    |     |
|                         | 考古学（'09）—その方法と現状—        | TV                        | 2    |     |
|                         | 北東アジアの歴史と朝鮮半島（'09）       | R                         | 2    |     |
|                         | ヨーロッパの歴史と文化（'09）—中世から近代— | TV                        | 2    |     |
|                         | 日本語学—母語のすがたと歴史—（'09）     | R                         | 2    |     |
|                         | 日本の古典—古代編—（'09）          | R                         | 2    |     |
|                         | 日本文学の読み方（'09）            | R                         | 2    |     |

| 科目区分 | 系・コース       | 科目名称            | メディア | 単位数 |
|------|-------------|-----------------|------|-----|
| 専門   | 自然と環境       | 分子生物学（'09）      | TV   | 2   |
|      |             | 植物の科学（'09）      | TV   | 2   |
|      |             | 動物の科学（'09）      | TV   | 2   |
|      |             | 力と運動の物理（'09）    | TV   | 2   |
|      |             | 量子物理（'09）       | TV   | 2   |
|      |             | 量子化学（'09）       | TV   | 2   |
|      |             | 空間とベクトル（'09）    | TV   | 2   |
| 総合   | -           | 統計学（'09）        | R    | 2   |
|      |             | 世界の中の日本（'09）    | TV   | 2   |
| 夏季集中 | 看護師<br>司書教諭 | 環境と社会（'09）      | R    | 2   |
|      |             | 老年看護学（'09）      | R    | 2   |
|      |             | 精神看護学（'09）      | R    | 2   |
|      |             | 学校経営と学校図書館（'09） | R    | 2   |
|      |             | 読書と豊かな人間性（'09）  | R    | 2   |

■表2-2 2009年度新規開設科目一覧（大学院）

| プログラム名         | 科目名称              | メディア | 単位数 |
|----------------|-------------------|------|-----|
| 生活健康科学         | 家族生活研究（'09）       | R    | 2   |
|                | 食健康科学（'09）        | TV   | 2   |
|                | 生活健康研究（'09）       | R    | 2   |
|                | 看護ケアの倫理学（'09）     | R    | 2   |
|                | スポーツ・健康科学（'09）    | R    | 2   |
| 人間発達科学         | 人間発達論（'09）        | R    | 2   |
| 人間発達科学・臨床心理学共通 | 心理・教育統計法特論（'09）   | R    | 2   |
| 臨床心理学          | 学校臨床心理学特論（'09）    | TV   | 2   |
| 社会経営科学         | 社会心理学特論（'09）      | TV   | 2   |
|                | 経済政策（'09）         | TV   | 2   |
|                | 途上国の開発政策（'09）     | TV   | 2   |
|                | 自治体と政策（'09）       | TV   | 2   |
|                | コーポレート・ガバナンス（'09） | R    | 2   |
| 文化情報学          | 日本の歴史と社会（'09）     | R    | 2   |
|                | 異文化の交流と共存（'09）    | R    | 2   |
|                | ことばと情報（'09）       | R    | 2   |
| 自然環境科学         | 物質環境科学（'09）       | TV   | 2   |
|                | 基礎情報科学（'09）       | R    | 2   |
|                | 数理科学の方法（'09）      | R    | 2   |

# 装いを新たに

# 放送大学叢書

放送大学の印刷教材は、従来より科目開設にあわせて書き下ろしたオリジナルのものであり、最新の学術研究を反映した内容は評価が高く、科目閉講とともに絶版になってしまうことには惜しむ声が多くなかった。

そこで放送大学では、既に閉講になった科目の印刷教材を基に新たに手を加え、「放送大学叢書」の刊行を企画し、

これが新書として出版された。

初年度である2009年は、学内に設置した放送大学叢書プロジェクトチーム及びそれに続く放送大学叢書委員会が企画した7冊が出版され、好評を得ている。

今後は、同委員会において叢書の基本方針や刊行科目の選定等の審議を行い、次々と刊行される予定である。

## ■ 2009年に出版された放送大学叢書一覧

| 書名   | 著者                                | 著者     |
|--|-----------------------------------|--------|
| 茶の湯といけばなの歴史 日本の生活文化                        | 林原美術館長、国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授 | 熊倉 功夫  |
| 動物の生存戦略 行動から探る生き物の不思議                      | 総合研究大学院大学教授                       | 長谷川真理子 |
| 音楽家はいかに心を描いたか<br>バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト | 元放送大学教授                           | 笠原 潔   |
| 徒然草をどう読むか                                  | 放送大学教授                            | 島内 裕子  |
| 比較技術でみる産業列国事情<br>アメリカ、中国、インド、そして日本         | LCA大学院大学副学長                       | 森谷 正規  |
| 自己を見つめる                                    | 放送大学名誉教授、東京大学名誉教授                 | 渡邊 二郎  |
| 私たちはメディアとどう向き合ってきたか<br>情報歴史学の新たなこころみ       | 放送大学名誉教授                          | 柏倉 康夫  |



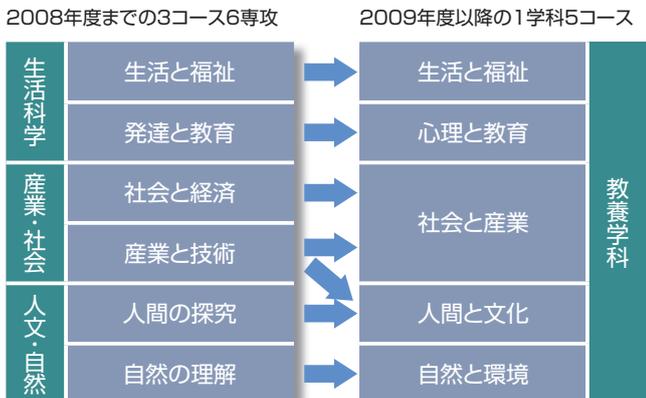
ポスター

# 教養学部教養学科、文化科学研究科文化科学専攻 学部、大学院の再編

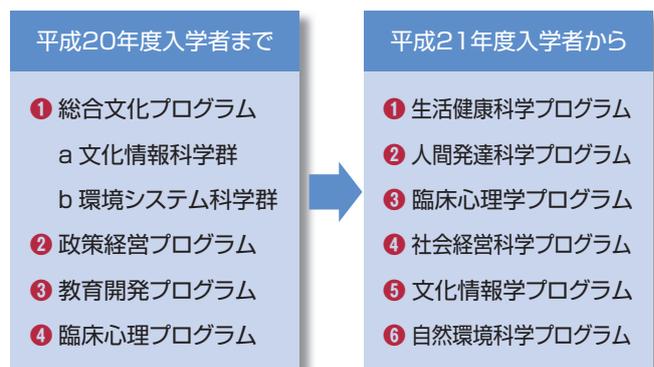
2009年4月より、学部は1学科5コース、大学院は1専攻6プログラムとなった。これにより、学部では、これまで以上に各コース間の関連が密接になるほか、各コースの特長が一層明確となった。

また、大学院においても、学部との整合性を高くすることにより、従来よりわかりやすいプログラム編成とし、学部から大学院への進学がスムーズに行なわれるよう配慮した。

## ■ 学部の再編成図



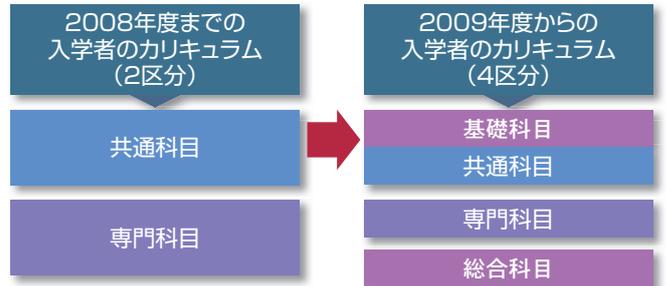
## ■ 大学院の再編成図



# 広く学びたい学生にも、深く学びたい学生にも 科目区分の改善

2009年4月から、よりわかりやすく、より体系的に履修しやすくするために学部科目区分を見直した。すなわち、大学教育の初歩知識と技法を身につける「基礎科目」、学問の諸領域への入門となる「共通科目」、コースごとに特定分野を深く学べる「専門科目」、コースを横断した学際・広域的な「総合科目」の4つである。これにより、広い分野を学びたい学生のニーズにも、特定の分野を深く学びたい学生のニーズにも応えられるカリキュラムとなった。

## ■ 学科目区分の変更図

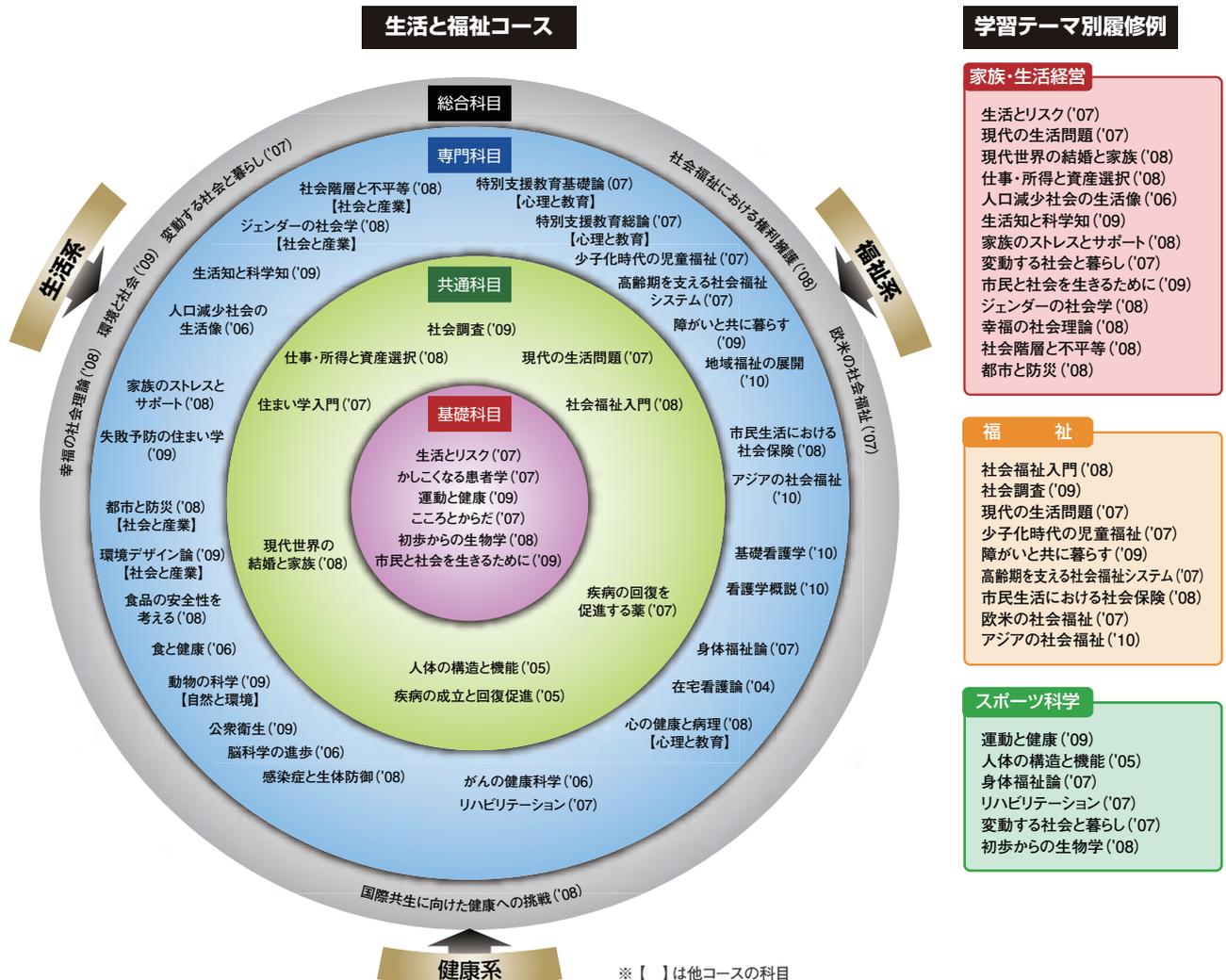


## 学生の学びをわかりやすく

放送大学では、学生が学びの内容や履修順序を学生のニーズに応じて様々な形で設定することができるようになっている。そのため、学生が履修計画を立てるための参

考として、履修図を作成し、授業科目案内に掲載した。また、2009年度より、履修図を放送大学のホームページ上でも公開し、参照しやすくしている。

## ■ 履修図の例 生活と福祉コース



## 教養を深めるための特別講義の開講

特別講義とは、各学問分野の第一人者がその学問について深く掘り下げて講義する番組であり、学問の本質に関わる講義、実務や芸術などに関して造詣の深い講師による講

義など、学びの喜びを体現する講義を設定している。2009年度第2学期は、テレビ78講義、ラジオ60講義を放送するとともに20講義をインターネットで配信した。

### ■ 特別講義 ('09開設科目) 一覧 (TV)

| 講義題目                         | 講師                        |               |
|------------------------------|---------------------------|---------------|
| 欧文絵本ちりめん本の魅力                 | 梅花女子大学名誉教授<br>株式会社雄松堂古書部長 | 石澤小枝子<br>新田 勇 |
| 屏風絵から見える近世の日本<br>—泰西王侯騎馬図屏風— | 放送大学准教授                   | 杉森 哲也         |
| 眠りの文化論                       | 京都大学准教授                   | 重田 眞義         |
| いま地球の片隅で<br>—脅かされる生物多様性—     | 放送大学教授                    | 松本 忠夫         |
| 情報セキュリティ<br>—デジタル社会を守る技術と制度— | 奈良先端科学技術大学院<br>大学教授       | 山口 英          |
| ポアンカレ予想とトポロジーの100年           | 東京工業大学教授                  | 小島 定吉         |

### (ラジオ)

| 講義題目                                    | 講師         |       |
|---|------------|-------|
| 世界遺産・石見銀山と大航海時代                         | 城西国際大学客員教授 | 脇田 晴子 |
| 「ジャーナリスの父、タレントの息子」<br>—明治日本に貢献したブラック親子— | 放送大学名誉教授   | 柏倉 康夫 |
| 地域学シリーズ 秩父学への招待                         | 武蔵大学名誉教授   | 黒澤 英典 |
| 世界の名著を読む 国富論から学ぶ                        | 関西学院大学教授   | 竹本 洋  |
| 人と動物のかかわり(1) 身近な動物                      | 麻布大学名誉教授   | 石橋 正彦 |
| 人と動物のかかわり(2) ネズミの話                      | 麻布大学名誉教授   | 石橋 正彦 |

## インターネットによる放送授業の受講

放送大学は2007年度に授業のインターネット配信を開始した。2009年度の配信科目数は右の通りである。

### ■ 2009年度インターネット配信の科目数一覧

|       | 学部  | 大学院 | 合計  |
|-------|-----|-----|-----|
| テレビ科目 | 17  | 2   | 19  |
| ラジオ科目 | 92  | 24  | 116 |
| 合計    | 109 | 26  | 135 |

注 テレビ科目については、配信実験中の科目数である。

## 対面による授業

面接授業(スクーリング)は、放送授業とともに放送大学の教育の中心に位置づけられるものであり、全国50カ所の学習センターと全国7カ所のサテライトスペースで開講している。2009年度の開講科目数は、2,702科目(1学期1,390科目、2学期1,312科目)である。これらの開講科目は、教養学部という特性に応じた幅広い内容のものであり、授業形態も通常の講義や実験だけでなく、フィールドワークや施設見

## 面接授業(スクーリング)

学など多彩である。

面接授業科目は、全国の学習センターで企画・立案し、開講している。学習センターでは、全国共通の科目だけでなく、各地の歴史や文化、産業、自然など、地域に根ざした独自科目を開講している。さらに複数の学習センターによる共同企画科目、近隣の大学や研究所などの協力を得て実施する科目などもある。

## 柔軟な面接授業の開設

学生にとってより一層履修しやすく、また、より一層質の高い授業を行なうために面接授業の開設方法等の改善を行なった。

開設日については、第1学期・第2学期という学期の中で完結するのであればその期間中でどのような曜日設定でも

開講可能とし、これにより夜間クラスの開設も容易となった。

また、時間割を見直して1時限85分・8コマとし、1日あたりの設定時限を最長5時限に再構成することにより、休憩時間を明確化し、十分な授業時間を確保した。

## 科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)の拡充

放送大学では、2006年度から本学独自の制度として、科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)を導入した。これは本学が指定する特定の授業科目群を履修することにより、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行ったことを認証するというものである。その後、2007年に学校教育法が改正され、新たに大学等に「履修証明制度」が規定された。そこで放送大学エキスパートは、2008年度から、この「履修証明制度」に対応するものとして再スタートした。

2008年度には「食と健康アドバイザープラン」など6プランが新たに創設され、22プランとなり、2009年度には「工学基礎プラン」が加わり全部で23プランとなった。2009年度の認証状修得者数は、5,538人にのぼっている(2009年12月1日現在)。初年度である2006年度の223人、2007年度の1,092人、2008年度の2,348人から着実に増加しており、修学目標の一つとして定着しつつあることがわかる。学生のニーズに広がる優れた制度であるといえよう。

認証状修得者数は、2009年12月1日現在

### ■ 2009年度認証プランと認証状修得者数一覧

| 認証プラン名               | 認証状の名称       | 認証状修得者数 |
|----------------------|--------------|---------|
| 1. 健康福祉指導プラン         | 健康福祉運動指導者    | 1,029   |
| 2. 福祉コーディネータプラン      | 福祉コーディネータ    | 566     |
| 3. 社会生活企画プラン         | 社会企画士        | 339     |
| 4. 食と健康アドバイザープラン     | 食と健康アドバイザー   | 98      |
| 5. 心理学基礎プラン          | 心理学基礎        | 864     |
| 6. 社会探究プラン           | 現代社会の探究      | 143     |
| 7. 市民活動支援プラン         | 市民政策論        | 205     |
| 8. 実践経営学プラン          | 経営の理解        | 168     |
| 9. ものづくりMOT(技術経営)プラン | ものづくりとMOTを学ぶ | 31      |
| 10. 次世代育成支援プラン       | 次世代育成支援      | 451     |
| 11. コミュニティ学習支援プラン    | 地域生涯学習支援     | 30      |
| 12. 異文化コミュニケーションプラン  | 異文化理解支援      | 157     |
| 13. アジア研究プラン         | アジア研究        | 56      |
| 14. 日本の文化・社会探究プラン    | 日本の文化と社会     | 71      |
| 15. 宇宙・地球科学プラン       | 宇宙・地球科学      | 87      |
| 16. 生命科学プラン          | 生命人間科学       | 281     |
| 17. 環境科学プラン          | 環境科学の基礎      | 153     |
| 18. 社会数学プラン          | 数学と社会        | 60      |
| 19. エネルギー・環境研究プラン    | エネルギー環境政策論   | 69      |
| 20. 芸術系博物館プラン        | 芸術系博物館活動支援   | 238     |
| 21. 歴史系博物館プラン        | 歴史系博物館活動支援   | 390     |
| 22. 自然系博物館プラン        | 自然系博物館活動支援   | 35      |
| 23. 工学基礎プラン          | 工学基礎         | 17      |
| 合計                   |              | 5,538   |

## 卒業研究報告書のインターネットでの公開

卒業研究報告書は、学部の卒業論文である。2007年度から、キャンパス・ネットワーク・ホームページにおいて、「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書(全文)」の公開を開始している。ただし、後者については、執筆者の了

解が得られかつ著作権やプライバシーの問題がないと判断されたものの中から特に優れたものを公開している。2009年度については2008年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書(全文)」32点を公開した。

## Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)第5号の刊行

大学院修士課程修了者の修士論文を基にした学生論文集である、Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)が、2005年3月の創刊より5年目を迎えた。2009年3月の

第5号には、修士課程修了生389名の修士論文より、論文11点、研究ノート36点を掲載している。

## 寄附科目の開設

放送大学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2009年度に開設されている寄附科目は表の通りである。

### ■ 寄附科目(TV=テレビ、R=ラジオ)

| 科目名            | メディア | 寄附団体名         |
|----------------|------|---------------|
| 著作権法概論('06)    | R    | 社団法人日本音楽著作権協会 |
| 消費者と証券投資('07)  | TV   | 日本証券業協会       |
| 組織運営と内部監査('09) | TV   | 社団法人日本内部監査協会  |

## 資格取得を目指して

放送大学で修得した単位を、以下の資格取得のために一部活用することができる。

看護師国家試験受験資格、教員免許状の上位・他教科・隣接校種の免許状、学校図書館司書教諭資格、特別支援学校教諭二種免許状(知的障害者教育領域)、養護教諭免許状、栄養教諭免許状、図書館司書資格、学芸員資格、社会教育主事資格、介護教員講習会の対応科目

### 【教員免許更新講習の開始】

教員免許法の改正により、2009年度から教員免許更新制が実施されることとなったことを踏まえ、放送大学では教員免許更新講習を開始した。

本学の教育方法の特性を活かし、テレビ・ラジオ及びイン

ターネットでの視聴を可能とし、いずれの視聴方法においてもインターネットで受講確認を行なう。修了認定試験は、全国の学習センター等で受験することとなっている。

この講習は、毎年2回(夏期及び冬期)実施することとしており、第1回の2009年の夏期においては、受講者は741人(科目受講者延べ総数2,302人)であり、修了認定試験の後に実施した受講者アンケートでは、肯定的な回答が多数を占めた。



教員免許講習パンフレット

## 特別受験の学生への対応

放送大学では、身体に障害を有する学生への配慮として、単位認定試験受験に関し、本人の申し出により特別措置を講じている。具体的には必要に応じての別室受験、試験時

間の延長、点字問題や音声問題による出題等の対応を行っている。また、特別支援学校、病院においても単位認定試験を実施しており、2009年度は9名の学生が受験した。

## コールスタッフによる学生対応

2009年4月より、学生や一般からの電話対応を行うためのコールスタッフを配置した。コールスタッフは、放送大学に関する質問に対応するとともに、学生への学習支援や一般への情報提供を行っている。また、学生より出された質問、

意見、苦情等を担当部署へ報告し、それらに迅速に対応するとともに情報の共有を図っている。2009年4月より12月まで、38,574件の電話対応を行った。

## システムWAKABAによる事務手続きの簡便化

2009年度より、事務手続きをインターネット上で行えるシステム、「システムWAKABA」を稼働させた。これにより、学生がユーザー名とパスワードを取得すれば、インターネットで成績照会、科目登録申請、各種届出等が行えるようになった。また、学生各自の学生カルテを作成する機能により、学生は自分が登録した科目情報や、自分の卒業に必要な単位一覧を、いつでも知ることができるようになった。



システムWAKABA画面

# 研究への継続的な取り組み

## 特別研究と外部資金による研究から

放送大学では、専任教員が毎年数多くのテーマのもと研究を積極的に実践し、その成果を世に送り出している。また、研究の支援・推進のため特別研究費（学長裁量経費）の制度を設け、資金面での支援を行っている。放送大学教育振興会や日本学術振興会など外部からの助成資金も積

極的に獲得することにより、さらなる研究の充実を目指している。

2009年度に特別研究・放送大学教育振興会・日本学術振興会の助成で実施した研究テーマの例を以下で紹介する。

### ■ 2009年度学長裁量経費I(グループ研究・プロジェクト支援)決定者一覧

| 所属                             | 職名  | 氏名    | 研究課題名                                 |
|--------------------------------|-----|-------|---------------------------------------|
| 心理と教育                          | 教授  | 滝口 俊子 | 放送大学大学院臨床心理学プログラムの更なる前進を目指して          |
|                                | 准教授 | 佐藤 仁美 | —よりよい臨床家を育てるための修士生の追跡調査と他校比較—         |
| 社会と産業                          | 教授  | 坂井 素思 | 多領域をつなぐ「知識循環」的教養概念の比較研究               |
|                                | 教授  | 東 千秋  | —社会的科学的視点からのアプローチ—                    |
| 人間と文化                          | 教授  | 草光 俊雄 | アジアにおける通商・貿易から見たイギリス帝国史研究と国際歴史学会      |
|                                | 准教授 | 宮本 徹  | 「British Expansion in Perspective」の開催 |
| 自然と環境                          | 教授  | 生井澤 寛 | 通信制大学における特色ある外国語IT教材の研究と開発            |
|                                | 准教授 | 二河 成男 | バンドラの箱を開けよう…電子機器のブラックボックスを探る(面接授業の開発) |
|                                | 准教授 | 隈部 正博 | 電子顕微鏡および光学顕微鏡の活用に向けた基盤整備              |
| 附属図書館                          | 館長  | 松村 祥子 | 放送教材の効果的作成のための研究                      |
| ICT活用・遠隔教育センター(大学支援部門)         | 准教授 | 芝崎 順司 | 海外のオープンユニバーシティの図書・情報サービス              |
|                                | 准教授 | 近藤 智嗣 | —イギリス、韓国、日本の比較研究—                     |
| ICT活用・遠隔教育センター(ICT活用・遠隔教育推進部門) | 准教授 | 近藤 智嗣 | 素材映像を用いた映像技法学習eラーニングコースの開発            |
|                                | 准教授 | 浅井紀久夫 | 遠隔教育において複雑構造を効果的に解説するためのコンテンツ開発手法の提案  |
|                                | 助教  | 杉山 秀則 | 地図を基にした情報閲覧システムの科学館展示による評価と地域連携       |
| ICT活用・遠隔教育センター(国際連携部門)         | 准教授 | 柳沼 良知 | 将来的な大規模利用を想定したMoodleサーバの性能データの測定      |
|                                | 准教授 | 柳沼 良知 | 放送大学教材のアーカイブ化とカスタマイズ化に対応した教材開発に関する研究  |

### ■ 2009年度学長裁量経費II(個人特定研究助成)決定者一覧

| 所属                             | 職名  | 氏名    | 研究課題名   |
|--------------------------------|-----|-------|---|
| 生活と福祉                          | 教授  | 宮本みち子 | 自立の困難を抱える若者に対する生産的活動の有効性に関する国際比較研究            |
|                                | 教授  | 中谷 延二 | 沖縄および奄美諸島における伝承的食用植物の探索と健康増進成分の解明             |
|                                | 教授  | 多田羅浩三 | 保健所に働く専門職の生涯教育・研修体制に関する調査研究                   |
| 社会と産業                          | 教授  | 河合 明宣 | トキ再導入に関する日中韓三国の比較研究                           |
| 自然と環境                          | 教授  | 濱田 嘉昭 | —トキと生息地の保護を軸にした放送大学との交流の推進—                   |
| 附属図書館                          | 館長  | 松村 祥子 | 分子の立体構造の解明と生命との関係                             |
| ICT活用・遠隔教育センター(ICT活用・遠隔教育推進部門) | 教授  | 仲林 清  | フランスの余暇指導員(animateur)の養成システムと学童保育における実践の現状と課題 |
| ICT活用・遠隔教育センター(国際連携部門)         | 教授  | 青木久美子 | 拡張性を有する学習支援システムのための教材作成流通環境の研究                |
| ICT活用・遠隔教育センター(国際連携部門)         | 准教授 | 青木久美子 | 海外大学の遠隔教育における教材作成の調査研究                        |
| ICT活用・遠隔教育センター(国際連携部門)         | 准教授 | 辻 靖彦  | 講義映像とテスト問題を交互に表示するWebベースの教材                   |
|                                |     |       | —オーサリングツールの開発—                                |

■ 2009年度学長裁量経費(第2次募集)決定者一覧

| 所属                                 | 職名  | 氏名    | 研究課題名   |
|------------------------------------|-----|-------|---|
| 社会と産業                              | 教授  | 高橋 和夫 | 「総選挙後のイラク情勢・北部クルド地域を中心として」                                      |
|                                    | 教授  | 東 千秋  | 「テレビメディアが要件の科目のラジオ科目化における新しいオンデマンド型の補助教材システム開発」                 |
|                                    | 教授  | 来生 新  | 「日本からの資料寄贈を前提とする、中国における社会主義市場経済と日本の戦後期から高度成長期に至る政府主導型経済との比較研究」  |
| ICT活用・遠隔教育センター<br>(ICT活用・遠隔教育推進部門) | 准教授 | 近藤 智嗣 | 「放送大学の国際展開のためのミクストリアリティ体験型教材の開発」                                |
| ICT活用・遠隔教育センター<br>(国際連携部門)         | 教授  | 山田 恒夫 | 「日本の生涯学習の現状に関する文献調査と“White Paper”の作成・ASEM生涯学習ハブ:eASEMプロジェクトの一環」 |
|                                    | 教授  | 三輪真木子 | 「システムWAKABAとキャンパスネットワークのユーザ・インターフェイス調査」                         |

■ 放送大学教育振興会助成による研究：放送による大学教育用教材の研究開発

| 所属                                 | 職名  | 氏名    | 研究課題名   |
|------------------------------------|-----|-------|---|
| 生活と福祉                              | 教授  | 大曾根 寛 | 学生・卒業生参加型の教材開発等に関する参加事業<br>—放送大学と福祉関係職の協働による「生涯学習プラン」と「教育プログラム」の開発— |
| 社会と産業                              | 教授  | 仙田 満  | 日本の子どもの成育環境の変化とその人間形成における役割   |
|                                    | 教授  | 東 千秋  | 放送大学印刷教材の海外向けを目的とした漢字辞典の作成  |
| ICT活用・遠隔教育センター<br>(ICT活用・遠隔教育推進部門) | 教授  | 黒須 正明 | 学習手段の選択と利用に関する人工物発達学的分析   |
|                                    | 准教授 | 高橋 秀明 | 遠隔教育学習過程の記述:放送大学教員・学生を対象に   |
| ICT活用・遠隔教育センター<br>(国際連携部門)         | 教授  | 児玉 晴男 | 放送大学教材アーカイブ活用による中国における法学教育の国際交流に関する調査研究                             |

■ 放送大学教育振興会助成による研究：放送による大学教育用教材の研究開発

| 職名 | 氏名   | 事業名     |
|----|------|---------|
| 学長 | 石 弘光 | 国際交流の推進 |

■ 放送大学教育振興会助成による研究：機関特別推進研究等に係る助成

| 職名         | 氏名   | 事業名   |
|------------|------|---|
| 学長<br>特別補佐 | 林 敏彦 | 新たな単位互換システムへの移行への取り組みと<br>遠隔型生涯学習のための新しい「教育支援システム」の開発 |

■ 文部科学省又は日本学術振興会の科学研究費補助金による研究(氏名は代表者)

| 所属                                 | 職名  | 氏名    | 研究種目 | 研究課題名                                     |
|------------------------------------|-----|-------|------|---|
| 人間と文化                              | 教授  | 本多 俊和 | 基盤A  | 先住民をめぐる異化と同化の力学に関する人類学的研究                 |
| ICT活用・遠隔教育センター(国際連携部門)             | 教授  | 山田 恒夫 | 基盤A  | 学習コンテンツの世界的共有再利用を促進する情報システムと学習コミュニティの形成   |
| 生活と福祉                              | 教授  | 宮本みち子 | 基盤B  | 社会的経済セクターを通じた若者の社会的包摂に関する国際比較研究           |
|                                    | 教授  | 大曾根 寛 | 基盤B  | フランスと日本の新しい障害者政策に関する比較研究                  |
|                                    | 准教授 | 奈良由美子 | 基盤B  | 生活の安全・安心の実現とリスク管理・リスクコミュニケーションについての比較文化研究 |
| 人間と文化                              | 教授  | 草光 俊雄 | 基盤B  | ロマン主義時代の旅行記とその歴史的背景—国家意識・国民意識の変容を中心にして—   |
|                                    | 教授  | 吉田 光男 | 基盤B  | 戦前期日本人研究者による朝鮮知の構築                        |
| ICT活用・遠隔教育センター<br>(大学支援部門)         | 教授  | 加藤 浩  | 基盤B  | プロジェクト・ベース学習による協調学習の支援と評価に関する実践的研究        |
|                                    | 教授  | 仁科 エミ | 基盤B  | 脳機能イメージングと多元的生理指標による超高密度4K映像視聴効果の評価       |
| ICT活用・遠隔教育センター<br>(ICT活用・遠隔教育推進部門) | 教授  | 廣瀬 洋子 | 基盤B  | 高等教育における多様な学生への学習支援とICTの双方向型高度利用の研究       |
|                                    | 准教授 | 近藤 智嗣 | 基盤B  | 博物館における複合現実感共用システムの構築と科学的思考の育成に関する縦断的研究   |
| ICT活用・遠隔教育センター(国際連携部門)             | 准教授 | 浅井紀久夫 | 基盤B  | 技能伝承のための触力覚協調インタラクションによる分散訓練環境の構築         |
| ICT活用・遠隔教育センター(国際連携部門)             | 准教授 | 青木久美子 | 基盤B  | 構成主義に基づいた授業設計のための学習デザイン共有化ツールの研究開発        |
| 足立学習センター                           | 教授  | 富永 典子 | 基盤B  | ミャンマーカチン州未調査地域における貧困対策・健康増進のための有用資源の学術調査  |
| 広島学習センター                           | 教授  | 二宮 皓  | 基盤B  | 国際学力競争におけるグローバル・ガバナンスの実相の比較研究—PISAを事例として— |
| 副学長                                | 教授  | 荻野 博  | 基盤C  | 教員免許更新制における免許状更新講習用化学実験教材の開発              |
| 人間と文化                              | 教授  | 川合 慧  | 基盤C  | 情報の基礎概念および処理過程の教材向け可視化の研究                 |
| 心理と教育                              | 教授  | 小川 正人 | 基盤C  | 政治・行財政改革下の教育政策決定構造と自治体教育行財政の変容に関する実証的研究   |
| ICT活用・遠隔教育センター(大学支援部門)             | 准教授 | 芝崎 順司 | 基盤C  | 携帯電話によるコンテンツ発信・評価情報交流型ユビキタス学習環境の構築に関する研究  |
|                                    | 教授  | 仲林 清  | 基盤C  | 拡張性を有する学習者適応型学習支援システム構成法                  |
| ICT活用・遠隔教育センター<br>(ICT活用・遠隔教育推進部門) | 教授  | 近藤喜美夫 | 基盤C  | 国際教育交流における議論の質を向上させる遠隔コミュニケーション支援システムの開発  |
|                                    | 教授  | 中川 一史 | 基盤C  | 初等教育国語科における「みる」「みせる・つくる」領域育成向上教育プログラムの開発  |
| ICT活用・遠隔教育センター(大学支援部門)             | 教授  | 苑 復傑  | 基盤C  | 中国における高等教育の国際競争力強化体制—その構造と日本への含意—         |
| ICT活用・遠隔教育センター(大学支援部門)             | 教授  | 仁科 エミ | 挑戦萌芽 | 可聴域に限定されたデジタル録音周波数帯域伸張の生理的影響評価と教育応用       |
| ICT活用・遠隔教育センター(ICT活用・遠隔教育推進部門)     | 准教授 | 近藤 智嗣 | 挑戦萌芽 | 博物館に特化したゲームの学習効果—3Dシミュレーションと融合した展示手法の開発—  |
| ICT活用・遠隔教育センター(大学支援部門)             | 准教授 | 葉田 善章 | 若手B  | ユビキタス環境下での手書き入力を使った対面授業を支援する学習環境の構築       |
| ICT活用・遠隔教育センター<br>(国際連携部門)         | 准教授 | 鈴木 一史 | 若手B  | 3次元物体モデルのテキスト情報を考慮した類似検索に関する研究            |
|                                    | 准教授 | 辻 靖彦  | 若手B  | メタデータ付与の自動化と講義情報の配信による教育用コンテンツの流通促進       |
|                                    | 助教  | 森本 容介 | 若手B  | 世界中の教育コンテンツを検索可能な大規模総合サイトの構築と評価           |

# 国内外で幅広く展開する研究活動

放送大学で専任教員が行う研究活動はまた、国内のみならず、国際的にも場を広げ、幅広く展開している。特に、国際的には、海外の研究者・機関との共同研究や国際会議・学

会での講演などを数多く実践し、研究の推進や研究成果の普及などを行っている。

以下に、専任教員の研究活動の例をいくつか紹介する。

## ■ ブラジル・サンパウロにおける放送大学教材コーナーの構築による放送大学の国際化に資するプロジェクト(代表:東千秋教授)



国際交流基金サンパウロ日本文化センターの放送大学教材コーナー。(2009年6月)



## ■ 戦時国際関係—中日戦争国際共同研究第四次会議での座長・講演(西村成雄教授)



戦時国際関係—中日戦争国際共同研究第四次会議(2009年9月・重慶)にて。左は、報告する西村成雄教授(壇上左から4人目)、右は記念撮影。(左から2人目)



## ■ 文化とユーザビリティ(黒須正明教授)



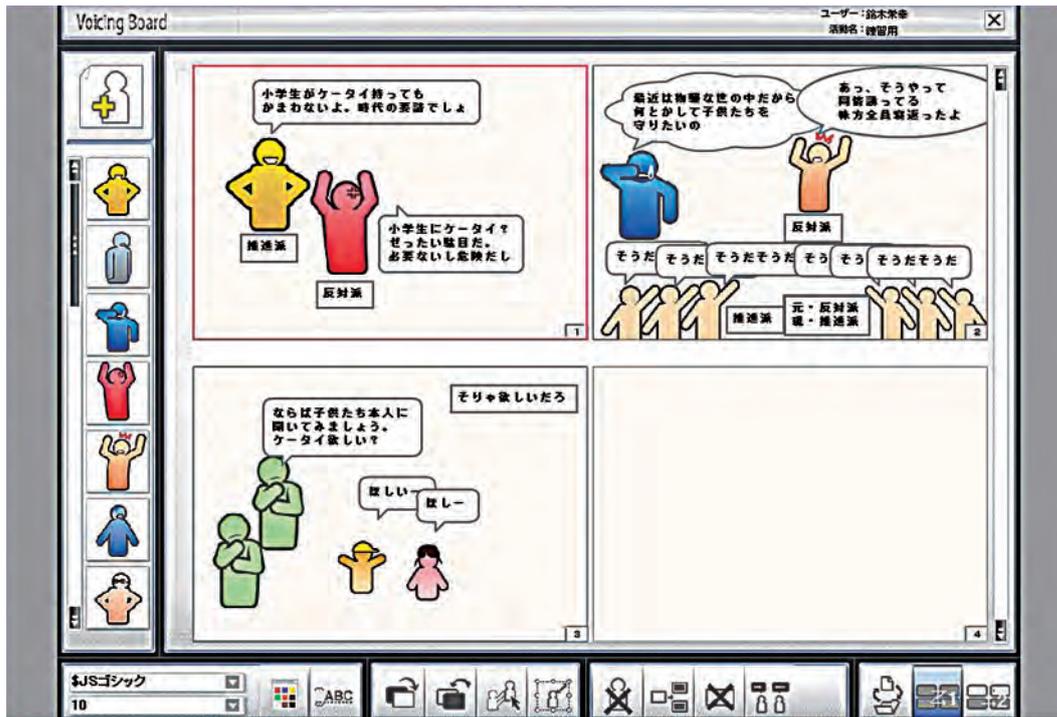
研究例。日本の文化では箸は横向きに置くものとされるが、日本で撮影したこの宴席での箸の置き方は縦である。なぜ縦に置くのかと聞くと、皆一様に「この方が使いやすい!」と言う。文化的伝統がユーザビリティ原則に反し、かつ人々は無意識的にユーザビリティ原則を採用しているという例である。(2009年12月)

## ■ 「武家の古都・鎌倉」国際フォーラムでの基調講演パネリスト(五味文彦教授)



「武家の古都・鎌倉」国際フォーラムへパネリストとして参加した五味文彦教授。(2009年2月)

■ 社会的ネットワーキングに着目したプレゼンテーション教育法『マンガ表現法』の提案 (加藤浩教授)



2009年度の日本科学教育学会論文賞に、加藤浩「社会的ネットワーキングに着目したプレゼンテーション教育手法『マンガ表現法』の提案」が選ばれた(鈴木栄幸次城大教授との共同研究)。同論文で提案したVoicing Boardでは、相手に受容されるプレゼンテーションに必要な共感的思考を訓練するために、マンガを使って関係者の発する声を想像させる。

## 放送大学研究年報の発行

放送大学では毎年、研究成果の論文をとりまとめた研究年報を発行している。2008年度版を2009年に発行した。

■ 2008年度(2009年3月発行)の放送大学研究年報掲載論文

| 論文タイトル  | 著者                      |
|---|-------------------------|
| 馬千里日記考(3)   | 浜口 允子                   |
| 教育者の「子ども観」に関する研究—教師・保育者を中心に—                                  | 住田 正樹<br>中村 真弓<br>山瀬 範子 |
| 千葉県郷土史:近現代史の一断面:幕末から開明期における佐倉藩士と洋学「西国の心学、心理学」との接点—西村茂樹・津田仙略伝— | 西川 泰夫                   |
| 夢を用いた心理療法—自由を得て鬱状態になった女性事例の夢を用いた心理療法過程から—                     | 小野けい子                   |
| 検索容易性の経験が社会・認知的判断に及ぼす効果                                       | 森 津太子                   |
| かけ橋機能としてのコラージュ—表現空間としてあるもの—                                   | 佐藤 仁美                   |
| 自己感情論の展開  | 船津 衛                    |
| 世界市場におけるインド東部産ジュート(黄麻)産業盛衰の長期的考察—小農・仲買商・製麻工業資本—               | 河合 明宣                   |
| ハワイ滞在中の長者丸乗組員たち   | 笠原 潔                    |
| 奇しき幻影(あやしきヴィジョン)—「亡霊たちの浜辺」とメアリ・ロビンソンの不安定なアイデンティティ—            | 大石 和欣                   |
| 滑降シンプレックス法による成長曲線からの大気パラメータの決定                                | 吉岡 一男<br>小林 康夫          |
| 柳田國男と小田内通敏—「郷土研究」をめぐる—  | 野澤 秀樹                   |
| 堀田善衛「方丈記私記」の圏域  | 島内 裕子                   |
| 江戸時代における「古語拾遺」注釈書類について  | 杉浦 克己                   |

# 研究成果の発表・普及 本学教員の書籍及び辞典・辞書の編集・執筆

放送大学の専任教員は、研究の成果を発表し共有・普及するために、印刷教材以外にも、多数の研究書籍を編集・執筆しており、また辞典・辞書の編集にも積極的にかかわっている。放送大学の専任教員が編集・執筆をした書籍・辞典・辞書の主なものは以下の通りである。これらは一般書店などでも購入することが可能である。また、放送大学や

公共の図書館などに所蔵されていることも多いので、閲覧することも可能である。特に書籍については、放送授業や印刷教材の内容より詳細に記されている場合もあり、各教員が日々取り組んでいる研究テーマや研究活動・成果に深く触れる絶好の機会となるであろう。

| 専攻・氏名          | 書籍名 辞典名   | 出版社名               |
|----------------|---|--------------------|
| 副学長            | 荻野 博 和英化学用語辞典(共編著)  | 東京化学同人             |
| 生活と福祉          | 松村 祥子 世界の社会福祉年鑑2009(共著)   | 旬報社                |
|                | 子どもの放課後を考える—諸外国と比較してみる学童保育問題(共著)  | 勁草書房               |
|                | 大曾根 寛 新・社会福祉士養成講座(4)現代社会と福祉—社会福祉原論(共著)  | 中央法規出版             |
|                | 高齢者と法を見る目に確かさを—アカデミア叢書(共著)  | 成文堂                |
| 心理と教育          | 奈良由美子 新リスク学ハンドブック—現代産業技術のリスクアセスメントと安全・安心の確保(共著)   | 三松                 |
|                | ガイドブック 教育法(共編著)   | 三省堂                |
|                | 小川 正人 検証 教育改革—品川区の学校選択制・学校評価・学力定着度調査・小中一貫教育・市民科(共編著)  | 教育出版               |
|                | 解説教育六法(2009平成21年版)(編集委員)  | 三省堂                |
|                | 滝口 俊子 家族のストレス(家族心理学年報)(共著)  | 金子書房               |
|                | 森 津太子 社会心理学—社会で生きる人のいとなみを探る—(共著)  | ミネルヴァ書房            |
| 社会と産業          | 住田 正樹 リトルリーグの社会学—前青年期のサブカルチャー(翻訳)   | 九州大学出版会            |
|                | 青少年・若者の自立支援—ユースワークによる学校・地域の再生(共著)   | 世界思想社              |
|                | 船津 衛 社会学理論と社会システム(MINERVA社会福祉士養成テキストブック)(編著)  | ミネルヴァ書房            |
|                | 天川 晃 GHQ情報課長ドーン・ブラウンとその時代—昭和の日本とアメリカ(共著)  | 日本経済評論社            |
|                | 西村 成雄 党と国家—政治体制の軌跡(叢書 中国的問題群)(共著)   | 岩波書店               |
|                | 林 敏彦 情報通信の政策分析—ブロードバンド・メディア・コンテンツ(共著)   | エヌティティ出版           |
| 人間と文化          | 仙田 満 こどものあそび環境(単著)  | 鹿島出版会              |
|                | 子どもが道草できるまちづくり(共編著)   | 学芸出版社              |
|                | 五味 文彦 日本の中世を歩く—遺跡を訪ね、史料を読む(単著)  | 岩波書店               |
|                | 本多 俊和 ヒトと動物の関係学 第2巻(2) 家畜の文化(スチュアートヘンリ 共著)  | 岩波書店               |
|                | ブリタニカ国際大百科事典2巻(インターネット版)(スチュアートヘンリ 共著)  | TBSブリタニカ           |
|                | 文化人類学事典(スチュアートヘンリ 共著)   | 丸善                 |
|                | 自然のこえ 命のかたち—カナダ先住民の生みだす美(共著)  | 昭和堂                |
|                | 先住民とはだれか(スチュアートヘンリ 共著)  | 世界思想社              |
|                | 内堀 基光 先住民とはだれか(共著)  | 世界思想社              |
|                | 集団:人類社会の進化(共著)  | 京都大学学術出版会          |
| 自然と環境          | 吉田 光男 近世ソウル都市社会研究—漢城の街と住民(単著)   | 草風館                |
|                | 島内 裕子 徒然草文化圏の生成と展開(単著)  | 笠間書院               |
|                | 徒然草をどう読むか(放送大学叢書)(単著)   | 左右社                |
|                | 大橋 理枝 外国語教育学研究のフロンティア—四技能から異文化理解まで(共著)  | 成美堂                |
|                | 松本 忠夫 生物にとって自己組織化とは何か—群れ形成のメカニズム(翻訳)  | 海游舎                |
|                | 環境年表 平成21・22年(監修・共著)  | 丸善                 |
| 大学支援部門         | 加藤 浩 情報リテラシーテキスト(共著)  | 培風館                |
|                | 内田 実 eラーニングからブレンディッドラーニングへ(共著)  | 共立出版               |
| ICT活用・遠隔教育推進部門 | 仲林 清 Multiplatform E-Learning Systems and Technologies: Mobile Devices for Ubiquitous ICT-Based Education(共著) | Hershey            |
|                | eテスト(共著)  | 培風館                |
|                | 黒須 正明 Handbook of Global User Research(共著)  | Morgan Kaufmann    |
| 国際連携部門         | 中川 一史 電子黒板が創る学びの未来—新学習指導要領 習得・活用・探究型学習に役立つ事例50(共著)  | ぎょうせい              |
|                | 三輪眞木子 情報アクセスの新たな展開—情報検索・利用の最新動向(シリーズ・図書館情報学のフロンティアNo.9)(共著)   | 勉誠出版               |
| 世田谷学習センター      | 秋鹿 研一 Nanoscale Materials in Chemistry, Second Edition(Second Edition)(共著)                                    | Wiley-interscience |

# 世界に開かれた放送大学

2009年も、世界の公開大学と国際交流協定を締結し、様々な大学と教育研究活動の協力関係を深めるなど国際交流に積極的に取り組んだ。

## 世界公開大学学長シンポジウムinさいたま

2009年11月14、15日、さいたま市の「コムナーレ」で、世界公開大学学長シンポジウムが文部科学省、さいたま市及び放送大学の共催により開催された。世界10カ国(カナダ、中国、インドネシア、アメリカ、イギリス、タイ、ニュージーランド、マレーシア、韓国、日本)の公開大学の学長や副学長等が集い、「生涯学習コミュニティの構築と遠隔教育の役割—国際的視点」というテーマを中心に興味深い発表と活発な議論が展開された。

シンポジウムは、登録すれば誰でも参加できるという開かれたもので、約300人の聴衆が集まった。

高橋和夫教授の司会で進められたシンポジウムは、鈴木寛文部科学副大臣、清水勇人さいたま市長、石弘光放送大学長の挨拶で始まり、続いて板東久美子文部科学省生涯学習政策局長の基調講演がなされ、日本における生涯学習社会の現状と課題が解説された。その後、各国の公開大学の学長、副学長等による講演が2日間にわたって行われ、それぞれの国の事情と歴史に触れながら、公開大学の現状

と、将来の展望が提示された。通信テクノロジーを利用した新たなネットワークの構築が、多くの人々にとって今後の共通課題であることがあきらかになった。シンポジウムにおいては、質疑応答の時間が十分にとられたこともあり、意義深い意見の交流がなされた。

このシンポジウムの様子は後日全国紙にも大きく掲載され、公開大学の現代的意義、そして放送大学の存在を、広く世間に知らしめる機会となった。

### 世界公開大学学長シンポジウムinさいたま参加大学

| 大学名                  | 国名       |
|----------------------|----------|
| アサバスカ大学              | カナダ      |
| 中央広播電視大学             | 中国       |
| テルプカ大学               | インドネシア   |
| メリーランド大学ユニバーシティ・カレッジ | アメリカ     |
| 英国公開大学               | イギリス     |
| スコタイ・タマティラット公開大学     | タイ       |
| ニュージーランド公開大学         | ニュージーランド |
| マレーシア公開大学            | マレーシア    |
| 韓国放送通信大学校            | 韓国       |
| 放送大学                 | 日本       |



講演風景



シンポジウムに参加した学長及び大学関係者

## 第1回日中韓セミナー

2009年9月4日、韓国ソウル市のグランドハイアットホテルにおいて、放送大学、韓国放送通信大学（KNOU）、中国中央広播電視大学（OUC）による、国際セミナーの第1回が開催され、本学からは石弘光学長、荻野博副学長、吉田光男教授、青木久美子准教授らが参加した。

このセミナーは、2008年9月22日に締結されたKNOUと本学との国際交流協定を受けて、石学長が開催を提案したセミナーに、OUC が参加するという形で開催されたものである。

“Innovation of Educational Practices in Open Universities” というテーマを掲げた今回のセミナーでは、第1セッションにおいて“Media Use and e-learning of Distance Education” というテーマのもとに、各国から1名

ずつプレゼンテーションがなされ、その後全体討議が行われた。そこでは、学生の積極的参加をいかにして促すか、ということが共通課題として浮かび上がった。第2セッションでは、“Functions of Regional Campuses” というテーマで、同じく各国からの参加者による講演があった。全体討議では、知名度の問題、遠隔教育分野におけるライバルの存在などが論じられた。

本セミナーは、2010年度に本学で開催される予定である。



会議風景

## 国際遠隔教育会議世界大会

2009年6月7日から10日にかけて、オランダのマーストリヒトで国際遠隔教育会議世界大会（ICDE2009 World Conference）が開催された。2年に1度開かれるこの会議の今年のスローガンは「Flexible Education for All : Open-Global-Innovation」であった。今回は70カ国から約600名が参加し、基調講演及び16の異なるテーマの平行セッションが行なわれた。本学からは石弘光学長、冨田房男北海道学習センター所長、青木久美子准教授が参加した。



### ■ 国際遠隔教育会議世界大会 平行セッションのテーマと発表件数 （冨田北海道学習センター所長による集計）

| テーマ               | 発表件数 |
|-------------------|------|
| オープン教育リソース（OER）   | 15   |
| 質保証               | 15   |
| 国際協力・開発           | 10   |
| テクノロジーによって促進された学習 | 42   |
| 教員研修              | 29   |
| 学習者支援サービス         | 26   |
| 就職の可能性            | 18   |
| 遠隔教育による教育機会の拡大    | 15   |
| 遠隔教育における組織的課題     | 14   |
| 文化的多様性            | 10   |
| バーチャル・モビリティ       | 9    |
| 学生評価              | 10   |
| 学習管理システム（LMS/VLE） | 17   |
| モバイル・ラーニング        | 7    |
| 外国語学習             | 6    |
| 組織的ケーススタディ・戦略     | 13   |

## 第23回AAOU年次会議

2009年11月3日から5日にかけて、イランの公開大学である Payame Noor University の主催で、第23回AAOU (Asian Association of Open Universities) 年次会議が、テヘランのイラン国営放送国際会議場で開催された。約300名の参加があり、本学からは山田恒夫教授と二河成男准教授が出席し講演を行った。山田教授の講演論文(森本容介助教と共著)、“Utilization of Metadata for Quality Assurance in the International Sharing and Reuse of Open Educational Resources” は、この会議の講演論文のベスト5に選ばれた。



会議風景

## 国際交流協定

2009年5月7日、中国中央広播電視大学 (OUC) において 学術協力および交流に関する協定調印式のため、石弘光学長、青山昌文教授らが訪中した。



ゲダオカイ学長と石学長による調印式はOUCのスタジオで執り行われ、その模様がOUC傘下の44大学に生中継された。

当日の午後、北京

メリーランド大学ユニバーシティ・カレッジとの協定書締結

師範大学において、石学長が学生を対象に「日本の生涯学習、遠隔教育」についての講演をし、その後活発な討論がなされた。

2009年11月15日、メリーランド大学ユニバーシティ・カレッジと国際交流協定を締結した。調印式では、「世界公開大学学長シンポジウムinさいたま」にあわせて来日したスーザン・アルドリッジ学長と、石学長との間で、協定書のサイン及び交換が行われた。

今回の国際交流協定では、教材の開発協力、共同研究、共同学位プログラム、教職員・学生の交流などの実現に向け、双方が努力していくことを確認した。

## OIJ-GLOBE国際セミナー

2009年10月15日、放送大学 (OIJ) ICT活用・遠隔教育センターは、幕張メッセ・国際会議場において、OIJ-GLOBE国際セミナーを開催した。GLOBE(「グローブ」)は、優れた学習コンテンツを地球規模で共有再利用するために結成された国際コンソーシアムで、学習コンテンツの開発流通に関わる各国の中核的機関が13機関参加している。米国のICT活用教育を推進するEDUCAUSEや英国公開大学による招聘講演があり、学習コンテンツの共有再利用の最新動向について活発な意見交換が行われた。GLOBE創設機関の1つである本学には、通学制教育と遠隔教育、高等教育と生涯学習を中継する役割が期待されている。



セミナー風景

# 「開かれた大学」としての取り組み

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。多岐にわたる社会貢献活動を行っているが、その中から、教員が行った活動の一部を紹介する。

## 地域に根ざした教育等

### ■ 大学コンソーシアムを通じて地域に根ざす

放送大学は全国各地に学習センターを設置している。

この特色を生かし、2校間のみならず、地域の大学と「大学コンソーシアム」協定を行い、学生がより多様な授業科目を自由に履修できる体制作りを進めている。

#### ■ 2009年に加入したコンソーシアム

| コンソーシアム名            | 参加校の種類   | 参加大学等数 |
|---------------------|----------|--------|
| かながわ大学生涯学習推進協議会     | 大学・短大    | 69     |
| 横浜市大学・都市パートナーシップ協議会 | 大 学      | 30     |
| 大学コンソーシアム京都         | 大学・短大    | 51     |
| 大学地域コンソーシアム鹿児島      | 大学・短大・高専 | 13     |

### ■ 放送大学との併修制度

放送大学には、専修学校専門課程と連携協力を実施し、専修学校専門課程に在籍しながら学士（教養）の学位を取得できる大学併修制度がある。

#### ■ 2009年に締結した連携協力校

| 校 名      |
|----------|
| 帯広コア専門学校 |

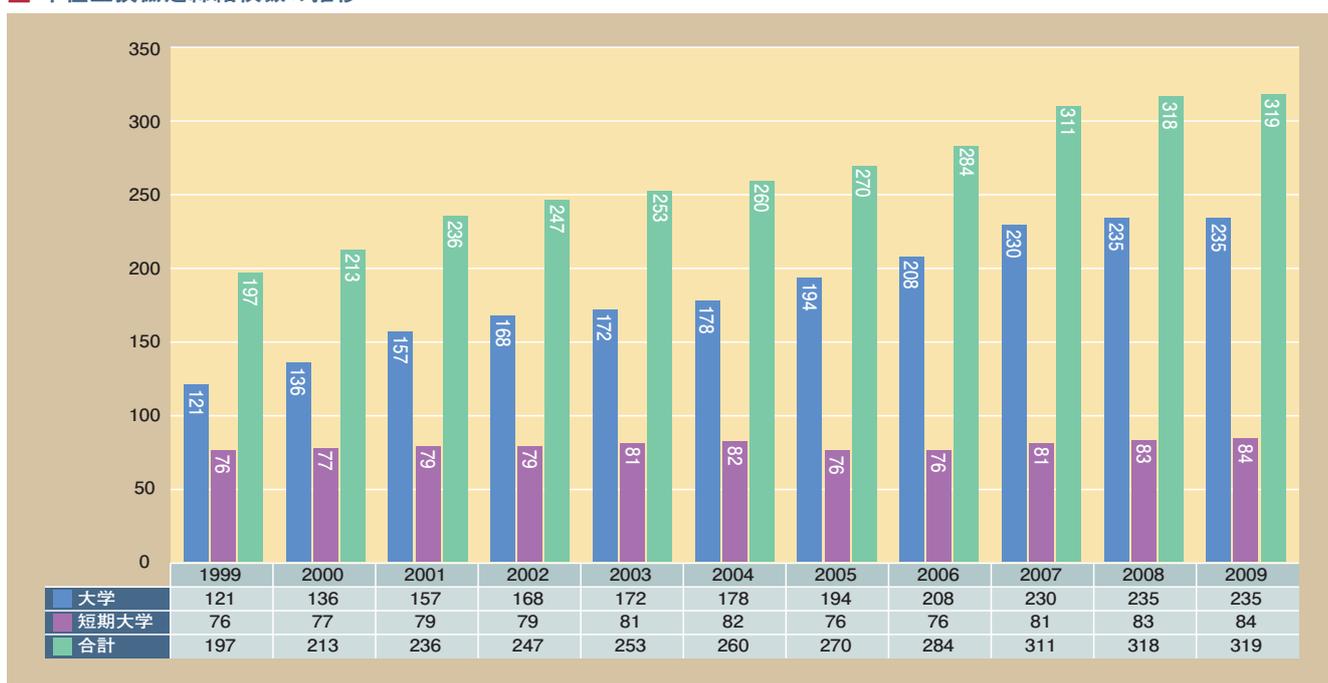
### ■ 大学間単位互換協定

放送大学では、全国の教育機関と積極的に単位互換協定を進めており、2009年も新たに4校と単位互換協定を締結し、合計319校となった。

#### ■ 2009年に締結した単位互換協定大学・短期大学

| 大学名         |
|-------------|
| 東京医科歯科大学    |
| 神奈川県立外語短期大学 |
| 松山東雲女子大学    |
| 松山東雲短期大学    |

#### ■ 単位互換協定締結校数の推移



## 日本学術会議

日本学術会議は1949年に内閣総理大臣の所管の下に設立され、科学に関する重要事項を審議し、研究の連絡を図り、その能率を向上させるための活動を実施するものである。わが国の人文、社会科学、自然科学の全分野の研究

者を代表する機関といえ、およそ210人の会員と2,000人の連携会員を有する。本学の教員も連携会員等選ばれ、その活動に貢献をしている。以下にその一部を紹介する。

### ■ 日本学術会議での会員加入状況

| 氏名    | 職名                | 職位   | 部   |
|-------|-------------------|------|-----|
| 海部 宣男 | 教授                | 幹事   | 第三部 |
| 仙田 満  | 教授                | 副部長  |     |
| 内堀 基光 | 教授                | 連携会員 | 第一部 |
| 原 純輔  | 宮城学習センター所長 (特任教授) |      |     |
| 船津 衛  | 教授                |      |     |
| 本多 俊和 | 教授                |      |     |
| 宮本みち子 | 教授                |      |     |

| 氏名    | 職名                 | 職位   | 部   |
|-------|--------------------|------|-----|
| 吉田 光男 | 教授                 | 連携会員 | 第一部 |
| 富田 房男 | 北海道学習センター所長 (特任教授) |      | 第二部 |
| 星 元紀  | 教授                 |      |     |
| 松本 忠夫 | 教授                 |      | 第三部 |
| 荻野 博  | 副学長                |      |     |
| 桂井 誠  | 文京学習センター所長 (特任教授)  |      |     |
| 斎藤 清機 | 岡山学習センター所長 (特任教授)  |      |     |

## 学会、国、地方自治体等における活動

本学教員は学識者として、それぞれの専門性を活かして学会、国、地方自治体等での様々な組織で活動し、社会の発

展に寄与している。その一部を以下で紹介する。

### ■ 学会、国、地方自治体等での活動

| 氏名    | 職名   | 役職  |
|-------|------|---|
| 荻野 博  | 副学長  | IUPAC (International Union of Pure and Applied Chemistry) National Representative |
| 松村 祥子 | 図書館長 | 日仏社会学会、副会長  |
| 大曾根 寛 | 教授   | 日本職業リハビリテーション学会 理事・副会長  |
| 住田 正樹 | 教授   | 子ども社会学会会長   |
| 小川 正人 | 教授   | 日本教育行政学会会長 中央教育審議会委員  |
| 滝口 俊子 | 教授   | 日本心理臨床学会、監事   |
| 船津 衛  | 教授   | 日本社会学会常務理事  |

| 氏名    | 職名                | 役職                   |
|-------|-------------------|----------------------|
| 仙田 満  | 教授                | 日本建築学会 名誉会員          |
| 内堀 基光 | 教授                | 日本文化人類学会評議員          |
| 加藤 浩  | 教授                | 日本科学教育学会理事           |
| 仲林 清  | 教授                | 教育システム情報学会 理事        |
| 三輪眞木子 | 教授                | 日本図書館情報学会 常任理事・国際委員長 |
| 原 純輔  | 宮城学習センター所長 (特任教授) | 日本社会学会 (理事)          |
| 柴田 洋雄 | 山形学習センター所長 (特任教授) | 山形市行財政改革推進懇話会 座長     |

## 一般向け講演会

大学で得られる知識を積極的に社会に提供することは、大学と社会との垣根を取り去り、相互の健全な発展のために重要であることから、本学の教員は、その専門知識を講

演会等を通じて社会に還元している。活動の一部を以下で紹介する。

### ■ 一般向け講演会

| 氏名    | 職名                | テーマ                         | 主催・形態等                   |
|-------|-------------------|-----------------------------|--------------------------|
| 荻野 博  | 副学長               | 第27回サイエンスカフェ「小さな化学実験、大きな成果」 | 富山房インターナショナル・日本学術会議      |
| 白井 永男 | 教授                | 寝たきりとならないための生活習慣            | 八王子学園都市大学                |
| 石丸 昌彦 | 教授                | 認知症研修入門編                    | 杉並社会福祉協議会 研修会            |
| 滝口 俊子 | 教授                | 子育ての知恵                      | 海老名市教育委員会                |
| 高橋 和夫 | 教授                | 中東に吹くイスラム復興の風               | さいたま市民大学                 |
| 原田 順子 | 准教授               | 女性と仕事:変化する現代の諸問題            | 長野県婦人教育推進協議会             |
| 松本 忠夫 | 教授                | 生物をまとめて調べると見えてくる世界          | 日本学術会議シンポジウム             |
| 中川 一史 | 教授                | これからの情報教育                   | 千葉県総合教育センター教育情報化リーダー養成講座 |
| 宮崎 清  | 千葉学習センター所長 (特任教授) | 地域の華に基づいて—Ecomuseumによる地域振興  | 富里市公民館                   |

# よりよい教育を目指して

## 授業評価

放送大学では、教育内容や教授方法及び学習支援システム等の改善に資することを目的に、自己点検・評価の一環として、①学生による授業評価、②学習センター所長及び客員教員による授業評価、③専任教員による授業評価を行なっている。

評価者は、①実際に授業を受けた学生、②学習センターで学生の学習相談等に当たる学習センター所長、③科目の企画・作成に携わる教員となっており、多面的な評価を行なっている。

具体的な評価方法等は、自己点検・評価委員会で決定しており、2009年においては、①学生による授業評価は143科目、②学習センター所長及び客員教員による授業評価は50科目、③専任教員による授業評価は41科目の評価を実施した。評価結果については、各科目の主任講師、専任教員、学習センター所長、放送部・制作部等の科目制作責任者に提供し、必要に応じ修正等の改善を行っている。

また、通信指導・単位認定試験問題の改善及び学生からの質問への回答などの学習支援の改善にも活用している。

## Faculty Development (FD)

Faculty Development (FD)の一環として3月10日に2名の講師による講演会を開催した。はじめに、橋本勝教授(岡山大学教育開発センター)より、「FDの日常化を目指して」について講演をしていただいた。FDを日常化する試みについて興味深い内容であった。次に、Julian R.Koe准教授(国際基督教大学理学研究科)には、「Faculty Development at ICU」というタイトルで、我が国で最も早くからFDに取り組んできた国際基督教大学のFDの具体的な取り組みについて紹介していただいた。講演後には、演者、本学教員の間で、活発な議論が展開された。また、7月のFDセミナーでは、浦田広朗教授(名城大学大学院大学学校づくり研究科)、両角亜希子講師(東京大学大学院教育学研究科)の両氏を招き、大学生の近年の学習行動について勉強会を行った。

FDの取り組みにより、教育の技術的側面は大きく向上している。本学では特に放送授業の制作時に役立てられている。

また、社会人教育を柱とする本学では、時代や社会の変化に伴い学生の動態も変化する。これを的確に把握し、学生のニーズに応じた教育を提供することが重要であり、そのための努力を続けている。



FD講演会

# 放送授業科目の主任講師会議

7月18日に放送大学本部にて、2011年新規開設科目の主任講師会議を行った。主任講師とは本学における放送授業科目の担当責任者のことであり、印刷教材の執筆、放送教材の制作、通信指導問題、単位認定試験問題の作成・採点、質問票への対応を行っている。

放送大学の講義は、放送授業と面接授業からなる。どちらも放送大学の専任教員だけではなく、他大学などの様々な機関に所属する研究者にも、客員教員として講義を担当していただいている。それら客員教員には、放送大学や放送大学の学生の特性について、事前に文章や面談にて周知しているが、特に放送授業の主任講師にとっては、放送での講義、印刷教材の執筆、通信指導、単位認定試験の問題作成等、通学制の大学では経験しない事柄が多数ある。そのため、放送大学では、年に1回、放送授業の制作の前に、専任、客員を問わず、主任講師となる教員を一同に集め、放送授業に関する

あらゆる事柄について解説している。その際には、教材を担当するディレクターや編集者との意見交換も行っている。

放送大学主任講師（2011年度開設科目）会議 議事次第  
2009年7月17日（金）

## 【全体会】

- 1 全体会開会
- 2 学長あいさつ
- 3 出席者紹介等
- 4 教材作成等の留意事項について
- 5 システムWAKABAに関する業務説明
- 6 質疑応答
- 7 全体会閉会

## 【部会】

- 8 コース別・プログラム別部会開会
- 9 業務概要説明
- 10 意見交換
- 11 コース別・プログラム別部会閉会

## 【スタジオ体験】

- 12 スタジオ体験開始
- 13 テレビ収録、ラジオ収録の流れ等説明
- 14 スタジオ収録体験
- 15 スタジオ収録体験終了



教材作成マニュアル



主任講師会議

## よりよい教材作成のために

放送大学の現行の教材作成スケジュールにおいては、放送教材作成と印刷教材作成の時期が重なっていることから、スムーズな作成が困難な場合があった。そこで、よりよい教材を作成し、もって教材の質を一層高めていくために、印刷教材、放送教材のそれぞれの制作時期を分離することにより、打ち合わせ、検討の期間を十分に確保できるよう教材作成スケジュールの見直しを行った。その結果、教材作成時期

## 教材作成スケジュールの改善

の変更を2009年から順次開始し（2012年度開設科目から開始）、3年間の移行期間の後、完全実施することとなった。

新スケジュール移行後は、シラバスの公開も約1ヶ月早められるとともに、新規開設科目の印刷教材も、第1学期学生募集時期にあわせて各学習センターに配架することが可能となる。

# 新センターの誕生と融合

## ICT活用・遠隔教育センター (CODE) [Center of ICT and Distance Education]

ICT活用・遠隔教育センター(CODE)は、放送大学の附属機関として2009年4月に設立された。旧独立行政法人メディア教育開発センター(旧NIME)の事業を継承し、放送大学をはじめとする高等教育機関のメディア活用教育、ICT活用教育の充実、発展を図る活動を進めている。また

総合研究大学院大学の基盤機関として博士課程学生の教育を行っている。

ICT活用・遠隔教育センターのミッションは、大学院教育のほか、大きく以下の2つである。

### ■ 放送大学のICT活用教育の推進

放送大学は、現在、より広い学習機会の提供と効果的な学習の実現を目指している。放送大学が世界の公開大学に

伍していくために、インターネットなどを活用して多様な学習機会、優れた教材を提供できる環境づくりを進めている。

### ■ わが国のICT活用教育を含めたメディア教育の振興

わが国におけるICT活用教育の推進に努め、特に「IT新改革戦略」で掲げられた「インターネット等を用いた遠隔教育を行う学部・研究科の割合を2倍以上にする」という目標の実現に資するため、全国の大学にeラーニングコンテン

ツを提供する「オンライン学習大学ネットワーク(UPO-NET)」の運営をはじめ、大学のeラーニング導入・実施を支援する活動を行っている。

## ミッション実現に向けて

ICT活用・遠隔教育センターは、ミッションの実現に向けて、次の3部門で組織されている。

- ◇大学支援部門
- ◇ICT活用・遠隔教育推進部門
- ◇国際連携部門

大学支援部門では、大学へのICT活用教育導入の支援活動として効果的なeラーニングに必要なツール・システム開発と提供やeラーニングやICT活用に必要な知識・技術を学ぶセミナーを実施している。

ICT活用・遠隔教育推進部門では、ICTを活用したFaculty Developmentのためのガイドブックや教材の開発、UPO-NETによる大学間のeラーニング教材の共有化などを推進している。国際連携部門では、大学の国際競争力の強化を支援するため、海外の大学との連携を推進している。そのために、国際シンポジウムの開催や、学習資源の収集・提供システムの運用を行い、国内外の学習資源の流通・共有化を推進している。



# ICT活用教育推進人材育成支援セミナーを実施

ICTを活用して、大学教育の質の向上を図ることができるよう、大学の教職員を対象に、学習効果の高いコンテンツを作成する方法、コンテンツ作成の際に必要な著作権に関する知識など、ICT活用に必要な技術や知識を習得



著作権セミナーは各会場に多くの受講者が集まった

するためのセミナーを、大学との共催などにより、各地で実施した。また、各大学が個別に実施している各種人材育成セミナーについて、講師を派遣するなどの支援を行った。

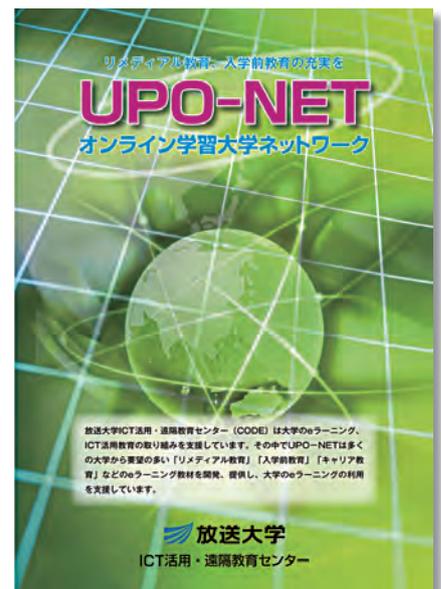
- ・著作権セミナー(10件)
- ・ICT活用教育セミナー(5件)
- ・UPO-NET セミナー(5件)
- ・FD(Faculty Development) セミナー(1件)
- ・インストラクショナルデザイン入門セミナー(1件)
- ・インストラクショナルデザインワークショップ(1件)
- ・コンテンツ制作ワークショップ(1件)
- ・素材制作ワークショップ(1件)
- ・eラーニングとLMS入門セミナー(1件)
- ・大学に学ぶ多様な学生への支援セミナー(11件)
- ・大学等の要請に基づく人材育成セミナー支援(25件)

## ツール・コンテンツを提供

教材の不足がeラーニングの普及を妨げている現状を開くため、eラーニング教材を作成・提供しており、現在、放送大学ではリメディアル教育、入学前教育、キャリア教育など多くの大学が求めている教材を提供している。

また、効果的なICT活用教育を実施するためのノウハウを機能として組み込んだ次のようなツールやシステムの開発を行い、大学等に提供することにより、ICT活用教育を推進している。

- UPO-NET (オンライン学習大学ネットワーク): リメディアル教育を中心とするeラーニング教材の提供
- CLAD (能力開発学習コンテンツ): 社会人に必要な能力を養うためのeラーニング学習システム
- COCET3300 (英単語語彙学習システム): 理工系学生のための必須英単語3,300語を学ぶことができるオンライン教材
- NIME-glad (能力開発学習ゲートウェイ)、GLOSS (グローバル学習オブジェクト検索): 教育用コンテンツ検索システム
- REAS (リアルタイム評価支援システム): PC・携帯向けWebアンケートシステム
- K-tai Campus (ケータイ・キャンパス): 携帯電話を用いた学内情報流通システム
- Probo (プロボ): プロジェクト学習を支援するWebベースのグループウェア
- Kneading Board (ニーディング・ボード:KB): パソコンの画面で共同学習ができるツール



UPO-NETパンフレット

# 学習センターの動き、この1年

## 「学ぶところ」をかたちに

## 入学者の集いと学位記授与式

### ■ 入学者の集い

4月には、各学習センターにおいて、「入学者の集い」を開催した。全国で合計30,360名の学生が放送大学に入学し、

それぞれが「学ぶところ」の実現に向けて第一歩を踏み出した。



山梨学習センター



群馬学習センター

### ■ 学位記授与式

3月28日、2008年度学位記授与式を東京・渋谷のNHKホールで挙行了した。当日は全国から学部卒業生・大学院修了生・同伴者合わせて2,000名を超える出席者があった。学歌演奏・石学長式辞・塩谷文部科学大臣並びに鈴木総務大臣政務官からの祝辞に続き、学部卒業生総代上野秋

雄さん（社会と経済専攻）と大学院修了生総代内藤理佳さん（総合文化プログラム文化情報科学群専攻）による謝辞等で閉式となった。2008年度3月の学部卒業生は3,230名、大学院修了生は414名であった。



学位記授与式（NHKホール）



## ■ グランドスラム達成学生への表彰

2009年3月の学位記授与式より、放送大学の6専攻すべてを卒業した学生（通称：グランドスラム学生）に対して学長表彰を行うこととし、最初の表彰者は4名であった。

また、2009年12月には、そのような者を「放送大学名誉学生」と命名することを定めた。

学位記授与式におけるグランドスラム学生の表彰



文京学習センター

## ■ 秋期にも、入学・卒業のチャンスあり

放送大学では、秋期にも入学（修士全科を除く）、卒業・修了が可能である。2009年も、9月から10月にかけて、全国の学習センターやサテライトスペースにおいて、入学者の集いと学位記授与式が行われた。入学者は22,342名、卒業・修了者は1,729名であった。

## 新しい歩み

## 学習センター、この1年

### ■ 青森学習センターの移転

青森学習センターは、9月に弘前大学構内の「コラボ弘大」7階フロアに移転した。教室の東の窓からは遙かに八甲田山、西の窓からは岩木山を仰ぐ学習環境である。移転記念事業として、10月10日には、石弘光学長による記念講演会を弘前大学および学園都市ひろさき高等教育機関コンソーシアムの後援により行い、多数の参加者があった。



青森学習センター外観



石学長による記念講演会

### ■ 新任の学習センター所長

2009年は、13の学習センターにおいて、新しい学習センター所長が就任し、学習センターのさらなる充実と発展のために、さまざまな企画・活動を行っている。

### ■ 新任の学習センター所長一覧

|            |         |           |         |
|------------|---------|-----------|---------|
| 青森学習センター   | 雨森道紘 所長 | 神奈川学習センター | 渡邊慎介 所長 |
| 宮城学習センター   | 原 純輔 所長 | 新潟学習センター  | 増田芳男 所長 |
| 秋田学習センター   | 吉崎克明 所長 | 石川学習センター  | 上田穰 所長  |
| 福島学習センター   | 北村 寧 所長 | 滋賀学習センター  | 佐藤尚武 所長 |
| 群馬学習センター   | 白井紘行 所長 | 和歌山学習センター | 橋本卓爾 所長 |
| 東京足立学習センター | 富永典子 所長 | 広島学習センター  | 二宮 皓 所長 |
|            |         | 宮崎学習センター  | 岡林 稔 所長 |

## ■ 多彩な面接授業

学習センターで行う面接授業は、多彩な講師陣による充実した内容を持っている。テレビ・ラジオで接している放送大学の専任教員や、地元の客員教員による、対面での授業である。教員と学生の交流だけでなく、学生同士の出会い

の機会ともなる。北海道・東北ブロック連携面接授業「『奥の細道』を巡る」など、各地の学習センターが統一テーマで行う「連携面接授業」も盛んになりつつある。

### ■ 面接授業の例

| 学習センター名   | 科目名             | 担当講師       |       |
|-----------|-----------------|------------|-------|
| 岩手学習センター  | 美林、秋田スギ青森ヒバ考    | 岩手大学教授     | 橋本 良二 |
| 茨城学習センター  | 初めての山登り         | 茨城大学名誉教授   | 太田 茂秋 |
| 千葉学習センター  | 地図でみる千葉県の姿      | 千葉大学教授     | 三澤 正  |
| 世田谷学習センター | 問題発見と解決の技法—発見   | 放送大学教授     | 東 千秋  |
| 文京学習センター  | 電気電子実験基礎A       | 放送大学准教授    | 秋光 淳生 |
| 三重学習センター  | 検証「秀吉神話」        | 三重大学教育学部教授 | 藤田 達生 |
| 京都学習センター  | お米のちから          | 京都大学名誉教授   | 天地 輝夫 |
| 奈良学習センター  | 奈良の文化財探訪（飛鳥の工芸） | 奈良教育大学名誉教授 | 脇田 宗孝 |
| 島根学習センター  | 心理学英文文献購読       | 放送大学准教授    | 星 薫   |
| 福岡学習センター  | 経営と会計           | 放送大学准教授    | 齊藤 正章 |



山口学習センター 面接授業

### ■ 連携面接授業の開催例：北海道・東北ブロック連携面接授業「『奥の細道』を巡る」(全2回・4日間)

| 科目名      | 担当講師名     |       | 開催日       | 場所       |
|----------|-----------|-------|-----------|----------|
| 芭蕉と象潟の伝承 | 秋田大学教授    | 志立 正知 | 10月17日(土) | 秋田学習センター |
|          |           |       | 10月18日(日) | 蛸満寺      |
| 出羽路の芭蕉   | 山形大学大学院教授 | 山本 陽史 | 11月7日(土)  | 山寺芭蕉記念館  |
|          |           |       | 11月8日(日)  |          |

## ■ 講演会や学習サロン

学習センターでは積極的に講演会を開催しており、地域、開催時期及び社会情勢などに応じたさまざまな話題が取り上げられている。

### ■ 講演会の開催

| 学習センター名  | 後援会名                       | 担当講師          |        |
|----------|----------------------------|---------------|--------|
| 栃木学習センター | 里山の動物たち                    | 宇都宮大学教授       | 小金澤 正昭 |
| 千葉学習センター | 映像のもつ力と深さ—ドキュメンタリーづくりの経験から | 前千葉県知事        | 堂本 暁子  |
| 山梨学習センター | ロシア民謡からのメッセージ              | 山梨大学教授        | 廣瀬 信雄  |
| 岐阜学習センター | 裁判員制度の実際                   | 岐阜地方検察庁検事     | 蛸名 太郎  |
| 愛媛学習センター | 電子メールの仕組み                  | 愛媛大学名誉教授      | 野田 松太郎 |
| 熊本学習センター | 菊池川水系の歴史と文化                | 熊本県教育庁文化課課長補佐 | 木崎 康弘  |



千葉学習センター 講演会

## ■ ゼミ・勉強会

面接授業に加え、学習センターでは、勉学の場として自主的なゼミや勉強会も盛んである。所長、客員教員だけでなく、学生が自分の経験や学習を生かして講師になる場合もあり、多彩で多様なゼミや勉強会が開かれている。

大分学習センター「広瀬旭社の日記を読む」



## ■ 学習・履修相談会

テレビやラジオを通して学ぶ放送大学においては、時として、学業上の疑問や悩みが生じることもある。そのような際には、各学習センターで学習相談・履修相談が受けられ

る。所長・客員教員、さらには経験者としての先輩学生たちが相談に応じている。

## ■ 研修旅行

学習センターでは、学習活動のひとつとして、研修旅行を年1回程度開催している。研修旅行は、学生・教職員の親睦のよい機会ともなっており、参加希望者も多い。訪問先は、学術機関、地域の名所・旧跡、体験学習など多彩である。

大分学習センター 門司港レトロといのちのたび博物館



## ■ 文化祭

文化祭を行う学習センターも多い。学生たちの日頃の学習の成果や、趣味の作品が披露され、学生同士の交流の機会ともなっている。

### ■ 文化祭の例

| 学習センター    | 文化祭の名称       | 開催日              |
|-----------|--------------|------------------|
| 千葉学習センター  | 千葉学習センター秋祭り  | 10月4日(日)         |
| 神奈川学習センター | 学園祭フェスタ・ヨコハマ | 8月30日(日)         |
| 埼玉学習センター  | 埼玉フェスタ       | 10月10日(土)～11日(日) |
| 滋賀学習センター  | かいつぶり文化祭     | 11月8日(日)         |
| 大阪学習センター  | 河堀祭(こぼれさい)   | 10月11日(日)        |



滋賀学習センター  
かいつぶり文化祭



千葉学習センター  
秋祭り

## ■ 機関誌の発行

学習センターでは、所長や教員のエッセイやセンターの動向、教務のお知らせ・学生の投稿など多彩な内容の特色ある広報誌を発行している。各地域にゆかりのあるものを冠するなど機関誌の名称は多彩である。

### ■ 機関誌の例

| 学習センター    | 広報誌名                    |
|-----------|-------------------------|
| 秋田学習センター  | ばっけ                     |
| 福島学習センター  | もみじ                     |
| 栃木学習センター  | とちの実                    |
| 埼玉学習センター  | 埼玉学習センターだより さきたま        |
| 千葉学習センター  | ちばがく                    |
| 神奈川学習センター | UA神奈川学習センター“春・夏・秋・冬”だより |
| 富山学習センター  | たんぼぼ                    |
| 山梨学習センター  | おいでなっぺ                  |
| 愛知学習センター  | しりあい                    |
| 三重学習センター  | ティータイム                  |
| 大阪学習センター  | みおつくし                   |
| 鳥取学習センター  | ぷりずむ                    |
| 岡山学習センター  | 赤レンガ                    |
| 香川学習センター  | 息吹                      |
| 愛媛学習センター  | 坊ちゃん                    |



千葉学習センター ちばがく

## ■ 学生表彰

学習センターでは、学生表彰制度により、特に優秀な成績を修めて卒業した学生を表彰している。複数の専攻を卒業・修了した学生や、放送授業・面接授業とも熱心に勉学に励んだ学生など、生涯学習にふさわしい表彰として、在学生の励みともなっている。

### ■ 学生表彰の例

| 学習センター    | 学生表彰の名称         |
|-----------|-----------------|
| 北海道学習センター | 北海道学習センター特別賞    |
| 福井学習センター  | 福井学習センター学生表彰    |
| 埼玉学習センター  | 埼玉学習センター生涯学習奨励賞 |



埼玉学習センター  
生涯学習奨励賞の受賞者

## ■ サークル

学習センターでは、学習・趣味・スポーツなどさまざまなサークル活動が活発に行われている。また、当該地域ならではの特色あるサークルも多い。



愛媛学習センター けん玉同好会



沖縄学習センター 琉球舞踊サークル

## ■ オープンキャンパス

学習センターにおいて、オープンキャンパスを開催している。これは、主に学生募集期間中に学習センターを会場として、放送大学の概要説明・放送授業体験・模擬面接授業・履修案内・講義室や図書室などの施設見学・サークル紹介などを通して、放送大学及び学習センターについて、理解を深めてもらう催しである。この時期に合わせて、公開講演会が開催されることも多く、在学生・卒業生の交流・再会の場にもなっている。



神奈川学習センター オープンキャンパス

## ■ 公開講演会・公開講座

学習センターでは、広く一般に公開する講演会や講座を多数開催している。在学生にとっても、放送授業科目や面接授業とはまたちがった角度から幅広い分野の興味深い内容を聴講できると好評である。学長・副学長・図書館長・専任教員も、活発に各地を訪問している。また、各地の特色をいかしたテーマも多く、放送大学ならではのわかりやすく興味深い内容である。また、1回限りではなく、連続講演会もある。

### ■ 本学教員による公開講演会の開催例

| 学習センター名  | 演 題          | 講 師        |
|----------|--------------|------------|
| 青森学習センター | 年金改革の視点      | 学 長 石 弘光   |
| 岩手学習センター | 地球環境を守る教育    | 副学長 荻野 博   |
| 埼玉学習センター | 身の回りに数学を見る   | 教 授 熊原 啓作  |
| 新潟学習センター | 芭蕉・天の川・宇宙    | 教 授 海部 宣男  |
| 静岡学習センター | フランスの家族と社会福祉 | 図書館長 松村 祥子 |
| 長野学習センター | 宇宙からの情報      | 教 授 吉岡 一男  |
| 大阪学習センター | 南蛮美術と神戸      | 教 授 杉森 哲也  |
| 山口学習センター | 脳を創る         | 副学長 岡部 洋一  |
| 福岡学習センター | 理系のススメ       | 教 授 生井澤 寛  |
| 沖縄学習センター | オバマ政権と中東     | 教 授 高橋 和夫  |

## ■ 再視聴施設の設置

放送大学の学生、および近隣市町村の方々に、放送大学の放送授業を視聴する機会を提供するために、地方公共団体などの協力を得て、全国60ヶ所設置している。再視聴施設は、在学生の学習環境の整備とともに、近隣の人々にも放送大学の学習を提供する地域に向けての放送大学からの発信形態のひとつである。2009年は、熊本学習センターにおける県内初の再視聴施設を天草市に開設するなど新たに9の施設を開設した。



天草教室開所式

### ■ 2009年開設の再視聴施設

| 学習センター   | 教室名               |
|----------|-------------------|
| 岩手学習センター | 二戸教室              |
| 宮城学習センター | 角田視聴学習室           |
| 山形学習センター | 山形学習センターコーナー(鶴岡市) |
| 山形学習センター | 山形学習センターコーナー(新庄市) |
| 鳥取学習センター | 倉吉教室              |

| 学習センター   | 教室名       |
|----------|-----------|
| 岡山学習センター | 新見教室      |
| 福岡学習センター | 久留米視聴コーナー |
| 福岡学習センター | 筑紫野視聴コーナー |
| 熊本学習センター | 天草教室      |

## ■ 地域との連携協力

各地の学習センターは、地域の高等教育機関などとの連携協力を行っており、地域の学習拠点としての役割を果たしている。



佐賀学習センター

### ■ 地域と連携した講演会開催例

| 学習センター名   | 講座名                     | 講師             |        | 連携した機関        |
|-----------|-------------------------|----------------|--------|---------------|
| 茨城学習センター  | 安心・安全な暮らしのための知識         | 茨城学習センター客員教授   | 大橋弘三郎  | 茨城県立図書館       |
| 足立学習センター  | 知られざるミャンマーの山岳少数民族の生活と自然 | 足立学習センター所長     | 富永 典子  | 足立区生涯学習センター   |
| 神奈川学習センター | 地域に根差した生涯学習             | 放送大学教授         | 岩永 雅也  | 厚木市等 市教育委員会   |
| 福井学習センター  | 食品の健康機能                 | 放送大学教授         | 中谷 延二  | 福井ライフ・アカデミー本部 |
| 滋賀学習センター  | 運動不足を解消して“からだ”を変えよう     | 放送大学教授         | 臼井 永勇  | 大津市生涯学習センター   |
| 大阪学習センター  | 大阪なにわ学                  | 大阪学習センター所長     | 柏木 隆雄他 | 読売新聞大阪支社      |
| 山口学習センター  | 脳を創る                    | 放送大学副学長        | 岡部 洋一  | 徳山高専          |
| 佐賀学習センター  | 佐賀県の特産品をとらえて、食と農を考えよう!  | 元佐賀県上場営農センター所長 | 村岡 実他  | J A さが        |

## ■ まなびピア埼玉2009に参加

第21回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア埼玉2009」が、10月30日から11月3日まで、埼玉県さいたま市のさいたまスーパーアリーナをメイン会場として開催された。放送大学からは埼玉学習センターが中心となって「生涯学習見本市」に出展し、期間中、サテライトスタジオの開設、放送大学コレクション「ちりめん本」展、授業体験コーナー、放送大学なんでも相談コーナーなどを設けた。また、今年のみまなびピアで5日間、専任教員による特別企画のミニ講座や、卒業生による特別講義を開催し、大盛況であった。

### ■ ミニ講座の一覧

| テーマ         | 講師  |       |
|-------------|-----|-------|
| 環境デザインと住宅   | 教授  | 仙田 満  |
| 記憶の不思議      | 准教授 | 星 薫   |
| 雇用不安定時代を生きる | 教授  | 宮本みち子 |
| 徒然草を生きる     | 教授  | 島内 裕子 |
| 第4の生物ヒト     | 教授  | 星 元紀  |



ミニ講座「徒然草を生きる」

## ■ 放送大学同窓会連合会「創立20周年記念」式典の開催

現在、全国43ヶ所の学習センターおよびサテライトスペースで同窓会が組織されている。学部全科卒業生・修士全科修了生による会員数9,821名の同窓会である。全国に及ぶ同窓会組織をまとめるのが、放送大学同窓会連合会である。

2009年は放送大学同窓会連合会の創立20周年記念の年であった。11月28日、放送大学附属図書館3階大会議室において、記念式典、パネルディスカッション、放送大学・同窓会代表情報交換会が行われ、引き続いて記念祝賀会が行われた。

記念式典では、森岡加代連合会長の式辞、石弘光学長の祝辞、歴代会長への感謝状贈呈、学歌斉唱が行われ、パネルディスカッションは「放送大学の更なる発展に向けての役割」をテーマに、本間博文副学長をコーディネーターとして、同窓会（森岡連合会長、河上・和田両元連合会長、小林香川同窓会会長）、大学（石学長）、学習センター（毛利埼玉学習センター所長）がパネラーとなり、意義あるディスカッションが行われた。



放送大学同窓会連合会創立20周年

## ■ 同窓会の活動

学習センターでは各々同窓会が設立されており、同窓会誌の発行、親睦旅行、講演会など多彩な活動を行っている。例えば2009年は、山口学習センター同窓会設立記念として、石弘光学長による特別公開講演会「少子高齢社会と政府の役割」が行われた。オープンキャンパスや学位記授与式後の

卒業・修了祝賀パーティーなど、重要な行事の運営も同窓会の協力が大きな役割を果たしている。放送大学を卒業後も、放送大学とのつながりがつづく同窓会は、学生・大学双方にとって大切な存在である。

# 放送大学の新たな動き

## 放送大学学生エッセイコンテスト

放送大学全学生を対象にした放送大学学生エッセイコンテストの第1回受賞作品を2009年1月29日に決定した。

これは、「学びと私の生活」というテーマで2008年7月～10月に応募されたエッセイ（2000字以内）の中から選んだものである。

応募総数は65点（内男性40人、女性25人）であった。応募者の年齢は23歳から85歳にまでわたり、その所属学習センターも北海道から九州までの28センターにわたるとい

う、放送大学学生の多様性をよく表した結果となった。

応募作品は、実行委員会による第一次選考によって22点に絞られ、その中から、学長をはじめとする6名の委員からなる選考委員会が11点の優秀作品を選んだ。

第2回のエッセイコンテストの募集は、2009年7月1日から10月15日に実施し、52点の応募があった。12月に第一次選考がすでになされており、2010年3月には最終結果を発表する予定である。

### ■ 第1回受賞者の一覧表

| 受賞者        | 作品名              | 学習センター |
|------------|------------------|--------|
| 最優秀賞       |                  |        |
| 増原 久子      | 『卒業研究』は広がっていった   | 島 根    |
| 優秀賞        |                  |        |
| 石黒 千絵      | 待っていてくれた場所       | 宮 城    |
| 寺澤しのぶ      | 終わりは、始まり         | 北海道    |
| ルー・ヨーク・フォン | 放送大学は私にとって大切な居場所 | 埼 玉    |

| 受賞者   | 作品名             | 学習センター  |
|-------|-----------------|---------|
| 佳 作   |                 |         |
| 伊藤 宏道 | 目標をもつこと         | 東京多摩    |
| 尾仲 敏郎 | 放送大学で学び続けて      | 姫路サテライト |
| 加藤 都  | 学ぶことが今嬉しい!      | 鹿児島     |
| 河瀬 網代 | 私にとっての放送大学とは    | 香 川     |
| 黒川 信弘 | 目標を持つ喜び一息子とともに一 | 京 都     |
| 佐久間正弘 | 放送大学で最高の贅沢を・・・  | 福 島     |
| 重本 俊明 | 放送大学と畑          | 香 川     |

※各賞毎の氏名は50音順 ※学習センターは応募時のもの

## 放送大学附属図書館所蔵コレクション展

附属図書館3階の展示コーナーにおいて、2009年7月1日から10日にかけて、特別展示を行った。これは、2003年度に行った「刻む・写す・摺る・刷る～文字の歴史と印刷文化～」と題したコレクション展のなかから、「刻む・写す」の部にあたるもので、紀元前2000年頃～2世紀頃までの、さまざまな文字が刻まれた粘土版や、象形文字などの書かれ

たパピルスを表示した。

また、展示コーナーには常設展示として明治期に出版された欧文和装絵本「ちりめん本」を展示しており、この他、同じく放送大学附属図書館が所蔵する幕末・明治期の古写真と合わせて、例年どおり各地で巡回展示を行った。

### ■ 2009年度附属図書館所蔵コレクションの開催地一覧

| 開催期間         | 開催地            |
|--------------|----------------|
| 5月16日～27日    | 千葉市生涯学習センター    |
| 6月3日～7日      | 磐田市立図書館        |
| 6月8日～16日     | 磐田駅前教室         |
| 6月25日～28日    | 中国電力(株)山口支社電遊館 |
| 10月30日～11月3日 | さいたまスーパーアリーナ   |
| 11月19日～22日   | 高知県立文学館        |



千葉市生涯学習センターでの展示

# 放送大学アクション・プラン2008から2010へ

放送大学は、放送手段を媒介にした遠隔教育を行う公共的な生涯学習機関として、そのミッションを四半世紀にわたって果たしてきたが、現代社会の変動、とりわけ情報技術の進展、高齢化の趨勢といった環境の変化のなかで、いかなる方向をとるべきかが今問われている。

こうした状況を踏まえ、放送大学の5～10年先を視野に入れた、将来ビジョンをまとめたのが、「アクション・プラン」であり、その最初のものを2008年に発表した。

2008～2009年の放送大学は、これらのプランの実現に

努め、放送大学叢書の刊行など、12項目のうち8項目の目標を達成した。

2009年において、今一度5年程度の将来を見据え、新たに「アクション・プラン2010」を策定した。基本理念を再認識し、3つのマスタープランを掲げた。すなわち、(1) 学生の満足度向上を目指した改革、(2) 時代に即した教育改革・組織改革、(3) 国際化のより一層の展開、である。これらにもとづき、具体的な10のアクション・プランを提示した。これらは2010年以降の放送大学の活動指針となるものである。

## ■ アクション・プラン2010 具体的な10のアクション・プラン

|    |                            |
|----|----------------------------|
| 1  | 教育の質の向上                    |
| 2  | 教養教育の広がりや資格取得教育の充実         |
| 3  | 学習センターの機能の明確化と強化           |
| 4  | 学びのコミュニティの創造               |
| 5  | 新しい教材コンテンツの開発              |
| 6  | 印刷教材の質の向上                  |
| 7  | 情報リテラシー教育の実施               |
| 8  | 大学院課程の改組および新しいプログラム／コースの新設 |
| 9  | 知識循環型教育研究の展開               |
| 10 | 国際社会における連携推進               |



Action Plan2010 パンフレット

# BSデジタル放送の開始に向けて

放送大学学園は、2009年6月17日に総務省より、BSデジタル放送の委託放送業務認定を受けた。これにより、2011年10月1日から、BSデジタル放送を開始する予定である。

なお、BSデジタル放送が予定どおり開始され順調に運用された場合には、現在行っているCSデジタル放送（スカパー!SD）は、2012年3月末に放送を終了する予定となっており、学生への周知など円滑な移行に向けて準備を進めている。



放送大学イメージキャラクター「マナビー」

# データで見る放送大学の概要

## 教職員数(常勤)

[単位:人]

|      |     |    |
|------|-----|----|
| 役員   | 7   | ※1 |
| 学長   | 1   |    |
| 副学長  | 3   | ※2 |
| 教員   | 92  |    |
| 事務職員 | 256 |    |
| 合計   | 357 | ※3 |

(2009年度)

※1 学長(理事)、副学長(理事)を含む

※2 副学長(理事)を含む

※3 重複があるため合計は一致しない

## 在学生数

[単位:人]

| 教養学部    |        |
|---------|--------|
| 学生の種別等  | 在学生    |
| 全科履修生   | 49,697 |
| 選科履修生   | 17,207 |
| 科目履修生   | 7,407  |
| 特別聴講学生※ | 3,758  |
| 合計      | 78,069 |

(2009年度第2学期)

| 大学院    |       |
|--------|-------|
| 学生の種別等 | 在学生   |
| 修士全科生  | 1,239 |
| 修士選科生  | 3,600 |
| 修士科目生  | 993   |
| 合計     | 5,832 |

(2009年度第2学期)

| 集中科目履修生       |       |
|---------------|-------|
| 学生の種別等        | 在学生   |
| 学校図書館司書教諭講習   | 833   |
| 看護師資格取得に資する科目 | 452   |
| 合計            | 1,285 |

(2009年度)

※特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

## 入学者数

[単位:人]

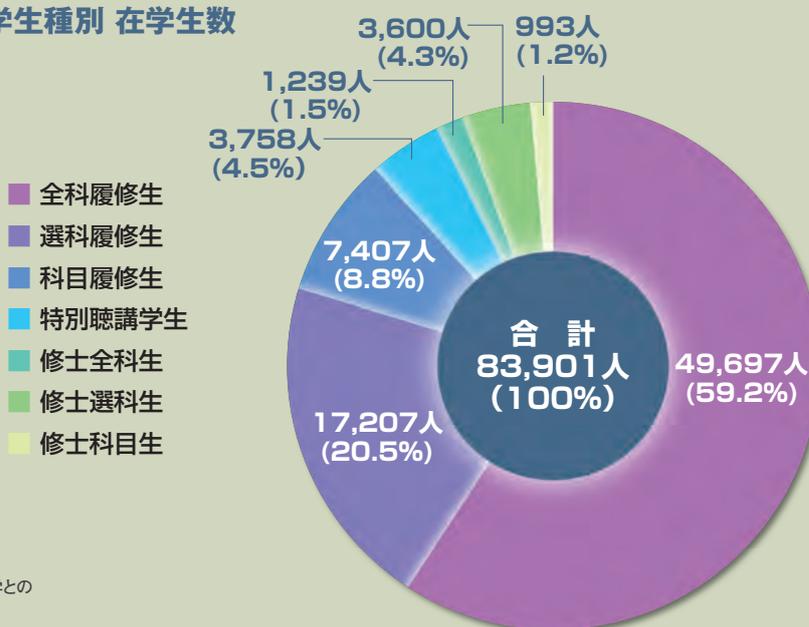
| 教養学部   |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| 学生の種別等 | 1学期    | 2学期    | 合計     |
| 全科履修生  | 6,909  | 3,554  | 10,463 |
| 選科履修生  | 11,498 | 5,735  | 17,233 |
| 科目履修生  | 6,094  | 7,407  | 13,501 |
| 特別聴講学生 | 1,909  | 3,758  | 5,667  |
| 合計     | 26,410 | 20,454 | 46,864 |

(2009年度)

| 大学院    |       |       |       |
|--------|-------|-------|-------|
| 学生の種別等 | 1学期   | 2学期   | 合計    |
| 修士全科生  | 428   | —     | 428   |
| 修士選科生  | 2,692 | 895   | 3,587 |
| 修士科目生  | 830   | 993   | 1,823 |
| 合計     | 3,950 | 1,888 | 5,838 |

(2009年度)

## 学生種別 在学生数



## 単位互換協定締結校数

[単位:校]

| 学校の種別 | 校数  |
|-------|-----|
| 大学院   | 5   |
| 大学    | 235 |
| 短大    | 83  |
| 高专    | 8   |
| 合計    | 331 |

(2010年2月現在)

## 学部卒業者数

[単位:人]

| 1学期   | 2学期   | 合計    | 累計     |
|-------|-------|-------|--------|
| 1,719 | 2,916 | 4,635 | 60,809 |

(2009年度)

## 大学院修了者数

[単位:人]

| 1学期 | 2学期 | 合計  | 累計    |
|-----|-----|-----|-------|
| 10  | 386 | 396 | 2,808 |

(2009年度)



〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11  
TEL:043-276-5111(代)  
<http://www.ouj.ac.jp/>